

ソフトウェアマニュアル
オペレーション

HIDIC
S10 シリーズ

モニタ専用HI-FLOW For Windows®

2α
S10mini
シリーズ

対象機種

HIDIC-S10/2	NESP-S25E
HIDIC-S10/2 E	NESP-2 E
HIDIC-S10/2 H	NESP-2 H
HIDIC-S10/2 Hf	NESP-2 Hf
S10mini モデルS	
S10mini モデルH	
S10mini モデルF	
S10mini モデルD	

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問合わせください。

2000年12月（第1版） SAJ - 3 - 154 (A) (廃版)
2003年 5月（第2版） SAJ - 3 - 154 (B)

このマニュアルの一部、または全部を無断で転写したり複写することは、固くお断りいたします。
このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。

安全上のご注意

システムの構築やプログラムの作成などは、このマニュアルの記載内容をよく読み、書かれている指示や注意を十分理解してから行ってください。誤操作により、システムが故障することがあります。

このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、手近なところに保管してください。このマニュアルの記載内容について疑問点または不明点がございましたら、最寄りの当社営業またはSEまでお知らせください。

お客様の誤操作に起因する事故発生や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供ソフトウェアを改変して使用した場合に発生した事故や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供以外のソフトウェアを使用した場合の信頼性については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

ファイルのバックアップ作業を日常業務に組み入れてください。ファイル装置の障害、ファイルアクセス中の停電、誤操作、その他何らかの原因によりファイルの内容を消失することがあります。このような事態に備え、計画的にファイルのバックアップを取っておいてください。

当社製品が故障や誤動作したりプログラムに欠陥があった場合でも、使用されるシステムの安全が十分に確保されるよう、保護・安全回路は外部に設け、人身事故や重大な災害に対する安全対策が十分確保できるようなシステム設計としてください。

非常停止回路、インタロック回路などはPLCの外部で構成してください。PLCの故障により、機械の破損や事故の恐れがあります。

運転中のプログラム変更、強制出力、RUN、STOPなどは十分安全を確認してから行ってください。誤操作により、機械の破損や事故の恐れがあります。

はじめに

モニタ専用HI-FLOWシステムをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

このシステムは、パーソナルコンピュータ上で動作し、HI-FLOWのアプリケーションプログラムのモニタを行うためのツールです。

このマニュアルは、モニタ専用HI-FLOWシステムにおける操作方法について記述してあります。
このマニュアルは、下記バージョンのシステムに対応しています。

システム名称およびバージョン
モニタ専用HI-FLOWシステム For Windows® 07-01

このシステムは、Ethernet経由での接続のみサポートしています。他の接続形態は使用できません。
HI-FLOWのプログラム（命令語の説明）については、下記マニュアルを参照してください。

<関連マニュアル>

ソフトウェアマニュアル プログラミング HI-FLOW For Windows®（マニュアル番号 SAJ-3-122）

NESP（Nissan Electronic Sequence Processor）シリーズは、下記の対応を参照のうえ使用してください。

【HIDIC-S10 シリーズ】		【NESPシリーズ】
HIDIC-S10/2	NESP-S25E
HIDIC-S10/2 E	NESP-2 E
HIDIC-S10/2 H	NESP-2 H
HIDIC-S10/2 Hf	NESP-2 Hf

<商標について>

- Microsoft® Windows® operating system, Microsoft® Windows® 95 operating system, Microsoft® Windows® 98 operating system, Microsoft® Windows® 2000 operating system, Microsoft® Windows® XP operating systemは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
 - Ethernetは米国Xerox Corp.の登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

Windows® 2000, Windows® XP対応システムについて

Microsoft® Windows® 2000 operating system (以降、Windows® 2000と略します。), Microsoft® Windows® XP operating system (以降、Windows® XPと略します。)対応のシステムは、下記一覧のとおりです。

下記一覧のバージョンより古いバージョンのシステムは、Windows® 2000, Windows® XPに対応していませんので、Microsoft® Windows® 95 operating system (以降、Windows® 95と略します。), Microsoft® Windows® 98 operating system (以降、Windows® 98と略します。)のみの対応となります。(下記一覧のシステム名は、以降、各システムと略します。)

< Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧 >

No.	システム名	型式	バージョン	Windows® 2000	Windows® XP
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	07-05		
2	ラダー図システム	S-7890-02	07-05		
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	07-02		
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	07-04		
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	07-04		
6	CPMSデバッグシステム	S-7890-06	07-02		
7	CPMSEデバッグシステム	S-7890-07	07-02		
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	07-01		
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	08-01		
10	RPDP/S10 SYSTEM	S-7891-10	03-03	(*2)	× (*1)
11	NX/ACP-S10	S-7891-11	01-02	(*2)	× (*1)
12	NX/Ladder	S-7891-12	02-01	(*2)	× (*1)
13	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	07-02		
14	NX/HOST-S10	S-7890-14	07-01		
15	4 ラダー図システム	S-7890-17	07-05		
16	4 Hラダー図システム	S-7890-18	07-05		
17	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	06-01		
18	H7338サポートシステム	S-7890-20	07-01		
19	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	07-01		
20	CPU間リンクシステム	S-7890-22	07-01		
21	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	07-01		
22	外部機器リンクシステム	S-7890-24	07-02		
23	S10ET LINKシステム	S-7890-25	07-02		
24	J.NETシステム	S-7890-27	07-02		
25	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	07-03		
26	ET.NETシステム	S-7890-29	07-01		
27	FL.NETシステム	S-7890-30	07-03		
28	D.NETシステム	S-7890-31	07-04		
29	BSCシステム	S-7890-32	07-01		
30	HDLCシステム	S-7890-33	07-01		
31	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	07-04		
32	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	07-01		
33	IR.LINKシステム	S-7890-36	07-02		
34	クロスCコンパイラ (メンター・グラフィックス・ジャパン株式会社製)	MCP68K	5.3	(*2)	× (*1)

: 対応、× : 非対応

(*1) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® XPに非対応のため、Windows® 2000で使用してください。

(*2) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® 2000対応版 (バージョン5.3以降) が前提です。

<用語の定義>

- Nコイル : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したラダープログラムです。
- プロセス : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したHI-FLOWプログラムです。
- コンパイル : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムをPCsで実行できる形態（Nコイル、プロセスなど）に変換します。
- ビルド : 修正したアプリケーションプログラムのみコンパイルします。
- リビルド : 存在するすべてのアプリケーションプログラムをコンパイルします。
- シート : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムなどを作成するための用紙で、パソコン上で管理します。
- PCs : Programmable Controllersの略です。
S10 およびS10miniシリーズ等のPLCの総称です。
- PLC : Programmable Logic Controllerの略です。
プログラム内蔵方式でシーケンス制御をする工業用電子装置です。
S10 およびS10miniシリーズ等もPLCに該当します。

<記憶容量の計算値についての注意>

2ⁿ計算値の場合（メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など）

1KB（キロバイト）= 1,024バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,048,576バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,073,741,824バイトの計算値です。

10ⁿ計算値の場合（ディスク容量など）

1KB（キロバイト）= 1,000バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,000²バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,000³バイトの計算値です。

目 次

1	ご使用にあたり	1
1.1	モニタ専用HI-FLOW For Windows®の概要	2
1.2	必要なハードウェアとソフトウェア	3
1.3	HI-FLOW4回線同時モニタ	4
1.4	注意事項	6
1.4.1	HI-FLOWシステム入れ替え	6
1.4.2	モニタ専用HI-FLOWシステムの制限事項	6
2	システムインストール	9
2.1	インストール	10
2.2	アンインストール	11
2.3	システム立ち上げ	12
2.4	システム終了	13
3	HI-FLOWのシート	15
3.1	DOS版ファイル(.PSEなど)との関係	16
3.2	HI-FLOWのシート構成	16
3.3	HI-FLOWプロセスシート	17
3.4	HI-FLOWシート	18
4	HI-FLOWプロセスシート/ HI-FLOWシートの機能と使用方法	19
4.1	HI-FLOWプロセスシートの作成	20
4.2	HI-FLOWプロセスシートファイル機能	22
4.3	HI-FLOWプロセスシート編集機能	23
4.4	HI-FLOWプロセスシート表示機能	24
4.5	HI-FLOWプロセスシートビルド機能	25
4.6	HI-FLOWプロセスシートモード機能	26
4.7	HI-FLOWプロセスシートユーティリティ機能	28
4.8	HI-FLOWプロセスシートウィンドウ機能	30
4.9	HI-FLOWシートの作成	31
4.9.1	HI-FLOWシンボルの貼り付け	32
4.10	HI-FLOWシートファイル機能	34
4.11	HI-FLOWシート編集機能	35
4.12	HI-FLOWシート表示機能	37

4.13	HI-FLOWシートビルド機能	38
4.14	HI-FLOWシートモード機能	39
4.15	HI-FLOWシートユーティリティ機能	41
4.16	HI-FLOWシートウィンドウ機能	42

1 ご使用にあたり

1 ご使用にあたり

このマニュアルは、Windows®パソコンプログラミングのユーザを対象としています。

1.1 モニタ専用HI-FLOW For Windows®の概要

モニタ専用HI-FLOW For Windows®（以下、モニタ専用HI-FLOWシステムと略します。）は、一般的なWindows®アプリケーションと等価なオペレーションにより、Ethernet経由でHIDIC-S10 シリーズとS10miniシリーズのHI-FLOWアプリケーションプログラムのモニタを行うためのツールです。このモニタ専用HI-FLOWシステムは、通常のHI-FLOWシステムの書き込み機能と回線接続種別を制限した機能限定版です。

このモニタ専用HI-FLOWシステムとHI-FLOWシステムを使用することにより、Ethernet経由で最大4台のパソコンから1台のCPUに対し同時にHI-FLOWアプリケーションプログラムをモニタすることが可能です。

メニューにおいては、モニタ専用HI-FLOWシステムではサポートしていない機能があります（「4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法」参照）。

1. 2 必要なハードウェアとソフトウェア

各システムを使用するためには、以下のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

< パーソナルコンピュータ（以降、パソコンと略します。） >

項目	OS	Windows® 95 (*1)	Windows® 2000 (*1)	Windows® XP (*1)
		Windows® 98 (*1)		(*2)
CPU		Pentium 133MHz以上	Pentium 300MHz以上	
メモリ (RAM)		32MB以上	64MB以上	128MB以上
空きハードディスク容量 (*3)		20MB以上 / システム (ただし、OSロード、オプションソフトウェアは、10MB以上 / システム)		
FDドライブ		1台以上 (FDにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
CD-ROMドライブ		1台以上 (CD-ROMにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
イーサネット (10BASE-T)		1ポート以上 (パソコンとET.NETモジュールを接続する場合に必要)		
シリアル (D-sub9ピン)		1ポート以上 (PCsとパソコンをRS-232C接続する場合、またはET.NETモジュールにIPアドレスを設定する場合に必要)		
PCカード (PC Card Standard (JEITA V4.2) 準拠TYPE またはTYPE)		1スロット以上 (パソコンとパラレルインタフェースモジュール (LWZ400) を接続する場合、下記GP-IBカードと共に必要) GP-IBカード : PCMCIA-GPIB (型番 : 777438-02) (日本ナショナルインスツルメンツ株式会社製)		
ディスプレイ		800 × 600ピクセル以上の解像度		
Microsoft® Internet Explorer		バージョン4.01以降		

(*1) OSのサービスパックはソフトウェア添付資料を参照してください。

(*2) 「はじめに」内の< Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧 > No.10, 11, 12, 34を除きます。

(*3) 各システムをインストールするために必要な容量です。さらにユーザプログラム保存用の空き容量が必要です。

< パソコン以外のハードウェア >

- ・ HIDIC-S10 シリーズCPU (2) またはS10miniシリーズCPU
- ・ HIDIC-S10 シリーズ電源またはS10miniシリーズ電源
- ・ HIDIC-S10 シリーズバックボードまたはS10miniシリーズバックボード
- ・ パソコンとPCs間の接続ケーブル
- ・ 必要に応じたりモートI/Oステーション、電源、バックボード、カードおよび配線ケーブル

1.3 HI-FLOW4回線同時モニタ

このモニタ専用HI-FLOWシステムとHI-FLOWシステムを使用することにより、Ethernet経由での4回線同時モニタが可能です。4回線同時モニタとは、4台のパソコンから1台のCPUに対し同時にHI-FLOWアプリケーションプログラムをモニタする機能です。

4回線同時モニタが可能な前提条件および構成例を以下に示します。

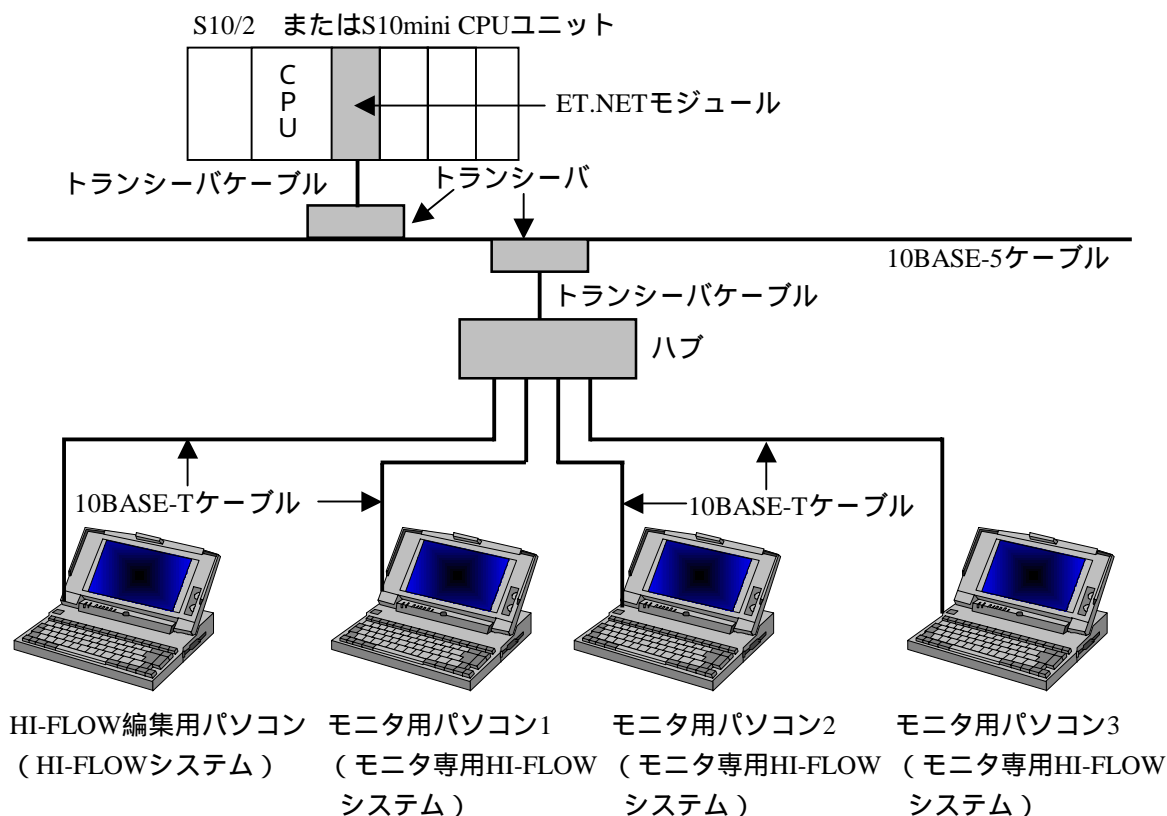
(1) 前提条件

- ・ ET.NETモジュールのバージョンが下記であること。
LWE550の場合、バージョン4, レビジョン1以上 (2 シリーズ)
LQE020の場合、バージョン3, レビジョン1以上 (S10miniシリーズ)
- ・ CPUとパソコンがEthernet経由で接続されていること (RS-232C接続、GP-IB接続では、この機能を使用できません)。
- ・ CPUとパソコンがLAN経由で接続されていること (1対1の直結接続では、この機能を使用できません)。
- ・ CPUに同時に4台までパソコンが接続できますが、HI-FLOW編集用のパソコン (通常のHI-FLOWシステム) は1台のみで、他のパソコンはモニタ専用 (モニタ専用HI-FLOWで3台まで) であること。

(2) 制限事項

1台のCPUにET.NETモジュールを2台 (メイン/サブ) 実装した場合でも、接続可能なパソコンは4台までです。

(3) 構成例



注 意

4回線同時モニタ機能を使用するためには、ET.NETモジュールのバージョンを下記にしてください。

LWE550の場合、バージョン4，レビジョン1以上（2 シリーズ）

LQE020の場合、バージョン3，レビジョン1以上（S10miniシリーズ）

上記バージョン未満のET.NETモジュールを使用し複数台のパソコンから1台のCPUに対し接続しようとする、下記エラーメッセージを表示し、オンライン指定を無効とします。



ラダー図システムもV7から4回線同時モニタ機能をサポートしましたが、1台のCPUに対し接続可能なパソコンはラダー図システム（モニタ専用も含む）およびHI-FLOWシステム（モニタ専用も含む）合わせて4台までです。1台のCPUにET.NETモジュールを2台（メイン/サブ）実装した場合でも、接続可能なパソコンは4台までです。

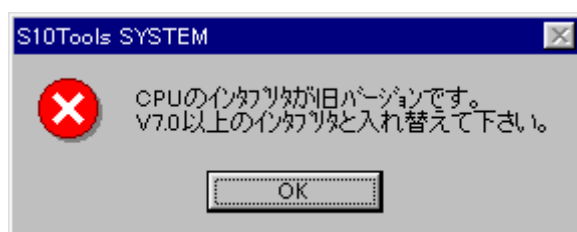
1 ご使用にあたり

1. 4 注意事項

1. 4. 1 HI-FLOWシステム入れ替え

モニタ専用HI-FLOWシステムにてPCsとオンライン状態にしたとき、下記メッセージが表示された場合には、PCs側（実機側）のHI-FLOWシステムの入れ替えを必ず行ってください。入れ替えは通常のHI-FLOWシステム（P.P.型式：S-7890-02）にて行ってください。モニタ専用HI-FLOWシステムでは、入れ替えはできません。

システム入れ替えを行うと、PCs側の全HI-FLOWプログラム（プロセス）が削除されます。必ずパソコン上に退避してから、システムの入れ替えを行ってください。



(1) HI-FLOWシステム入れ替え手順（HI-FLOWシステムでの手順）

PCsをSTOPさせます。

[ユーティリティ] - [PCs] - [PCsプロセス削除]にて[全プロセスおよびシステム交換]を選択します。

システム交換を行うと、PCs上の全プロセスが削除されますので、再度すべてのHI-FLOWプログラム（プロセス）を送信します。

1. 4. 2 モニタ専用HI-FLOWシステムの制限事項

モニタ専用HI-FLOWシステムは、通常のHI-FLOWシステムを比較し、以下の機能制限があります。

(1) PCsへの書き込み不可

プロセスの送信やレジスタ値の書き換え等、PCsへの書き込み機能はすべて使用できません。

PCsへ書き込みをしたい場合は、通常のHI-FLOWシステムを使用してください。

(2) プロセスモニタ時の通過ステップモニタ不可

プロセスモニタ時の通過ステップをモニタする機能は使用できません（通過ルートを赤色で表示することはできません）。通過ステップをモニタしたい場合は、通常のHI-FLOWシステムを使用してください。

留意事項

この製品を使用するユーザは、Windows®環境およびユーザインタフェースについての知識が必要です。このシステムはWindows®標準に従っています。このマニュアルは基本となるWindows®の使用法を習得しているユーザを対象にして記述しています。

注意

サスペンド機能を持ったパソコンを使用する場合は、サスペンド機能をOFFにしてください。このシステムを実行中にサスペンド機能が動作すると、正常に動作しないことがあります。

RAMの空きメモリ容量が不足すると、アプリケーションエラーが発生する場合があります。アプリケーションエラーが発生する場合は、空きメモリ容量をチェックし、少ない場合はRAMを増設してください。

2 システムインストール

2 システムインストール

2.1 インストール(*)

まず、お手元のCDが正しいものか確認してください。

各システムをインストールするには、システムのCDのDISK1フォルダに格納されているSetup.exeをダブルクリックします。インストール後、インストールしたプログラムの画面は表示されません。

なお、各システムをインストールするためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。もし、インストールされていない場合は、インストール後に各システムをインストールしてください。

注 意

各システムを動作させるためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。インストールされていない場合、各システムが正常に動作しません。各システムをインストールする前に、すべてのWindows®プログラムを必ず終了してください。ウイルス監視ソフトウェアなどメモリに常駐しているプログラムも必ず終了してください。終了せずにインストールすると、エラーが発生する場合があります。その場合は、「2.2 アンインストール」を参照して、一旦システムをアンインストールし、すべてのWindows®プログラムを終了してから、再度各システムをインストールしてください。Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。「制限付きアカウント」では各システムが正常に動作しません。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

2.2 アンインストール(*)

バージョンアップ時などのアンインストールは、以下の手順で行います。

(1) Windows® 95, Windows® 98からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックし、[セットアップと削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

(2) Windows® 2000からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

(3) Windows® XPからのアンインストール

[スタート]メニューの([設定] -) [コントロールパネル]を開きます。[プログラムの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの([設定] -) [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

デスクトップ等に、各システム実行ファイルのショートカットを作成した場合は、そのショートカットを削除してください。

注 意

Windows®でアンインストール中に[共有ファイルを削除しますか?]画面が表示された場合は、 ボタンをクリックして共有ファイルを削除しないでください。

Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。

Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。

Windows® 2000を使用してアンインストール時、[アプリケーションの追加と削除]画面がロック(操作不能)状態となった場合は、Windows®の[スタート]メニューの[シャットダウン]から一旦ログオフし、再度[Windowsへログオン]画面にてログオンしてください。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

2 システムインストール

2.3 システム立ち上げ(*)

(1) 各システムでインストールされるシステムは、Windows®の[スタート]メニューに自動的に登録されます。この[スタート]メニューから、[(すべての)プログラム] - [Hitachi S10] - 「各システム」を選択して起動してください。

各システムをインストール時にログオンしたユーザ名と、各システムを起動するユーザ名が異なる場合、各システムが[スタート]メニューに表示されません。その場合は、下記の各システムの実行ファイル(拡張子.exe)のショートカットをデスクトップ等に作成し、そのショートカットをダブルクリックして各システムを起動してください。

<実行ファイル格納ディレクトリー一覧>

No.	システム名	型式	実行ファイル格納ディレクトリ(*1)	実行ファイル名
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	C:\¥Hitachi¥S10	S10Ladder.exe S10Tool.exe
2	ラダー図システム	S-7890-02	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDC	S10Ladder.exe
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	C:\¥Hitachi¥S10¥HF	S10Tool.exe
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMS	Cpms.exe
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMSE	Cpmse.exe
6	CPMSデバuggシステム	S-7890-06	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUG	Debugger.exe
7	CPMSEデバuggシステム	S-7890-07	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUGE	DebuggerE.exe
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	C:\¥Hitachi¥S10¥GPIB	Gpib.exe
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	C:\¥Hitachi¥S10¥BACKUP	SysAllSaveLoad.exe
10	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	C:\¥Hitachi¥S10¥NX	NXTool.exe
11	4 ラダー図システム	S-7890-17	C:\¥Hitachi¥S10¥4ALDC	S10Ladder_4A.exe
12	4 Hラダー図システム	S-7890-18	C:\¥Hitachi¥S10¥4AHLDC	S10Ladder_4AH.exe
13	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	C:\¥Hitachi¥S10¥CFCONV	Cfconv.exe
14	H7338サポートシステム	S-7890-20	C:\¥Hitachi¥S10¥H7338	H7338.exe
15	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	C:\¥Hitachi¥S10¥HISRIO	HiSpeedRIO.exe
16	CPU間リンクシステム	S-7890-22	C:\¥Hitachi¥S10¥CPULINK	CpuLink.exe
17	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	C:\¥Hitachi¥S10¥ANALOG	AnalogPuls.exe
18	外部機器リンクシステム	S-7890-24	C:\¥Hitachi¥S10¥EXLINK	ExLink.exe
19	S10ET LINKシステム	S-7890-25	C:\¥Hitachi¥S10¥ETLINK	EtherNet.exe
20	J.NETシステム	S-7890-27	C:\¥Hitachi¥S10¥JNET	JNet.exe
21	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	C:\¥Hitachi¥S10¥ODRING-SDLINK	ODRing.exe
22	ET.NETシステム	S-7890-29	C:\¥Hitachi¥S10¥ETNET	Et_Net.exe
23	FL.NETシステム	S-7890-30	C:\¥Hitachi¥S10¥FLNET	FLnet.exe
24	D.NETシステム	S-7890-31	C:\¥Hitachi¥S10¥DNET	DNet.exe
25	BSCシステム	S-7890-32	C:\¥Hitachi¥S10¥BSC	BSC.exe
26	HDLCLシステム	S-7890-33	C:\¥Hitachi¥S10¥HDLCL	HDLCL.exe
27	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDCM	S10LadderM.exe
28	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	C:\¥Hitachi¥S10¥HFM	S10ToolM.exe
29	IR.LINKシステム	S-7890-36	C:\¥Hitachi¥S10¥IRLINK	IrLink.exe

(*1) インストール先ドライブ名が「C」の場合のディレクトリ名です。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

2.4 システム終了

モニタ専用HI-FLOWシステムの終了は、[ファイル]メニューから[アプリケーションの終了]を選択してください。システムが終了すると、Windows®の画面に戻ります。

3 HI-FLOWのシート

3 HI-FLOWのシート

HI-FLOWシステムのアプリケーションプログラムは、DOS版と構成が異なります。PCsに存在するプログラムは同じですが、HI-FLOWシステムはパソコン上でアプリケーションプログラムをシートという概念で扱います。

3. 1 DOS版ファイル (.PSEなど) との関係

HI-FLOWシステムはDOS版の各ファイルを読み込み、かつ指定した拡張子形式で保存することができます。「コンバート」([ファイル] - [FD] - [読込]) または「形式を指定して保存」([ファイル] - [FD] - [保存]) を利用します。

3. 2 HI-FLOWのシート構成

HI-FLOWシステムが管理するシートは、以下のものがあります。

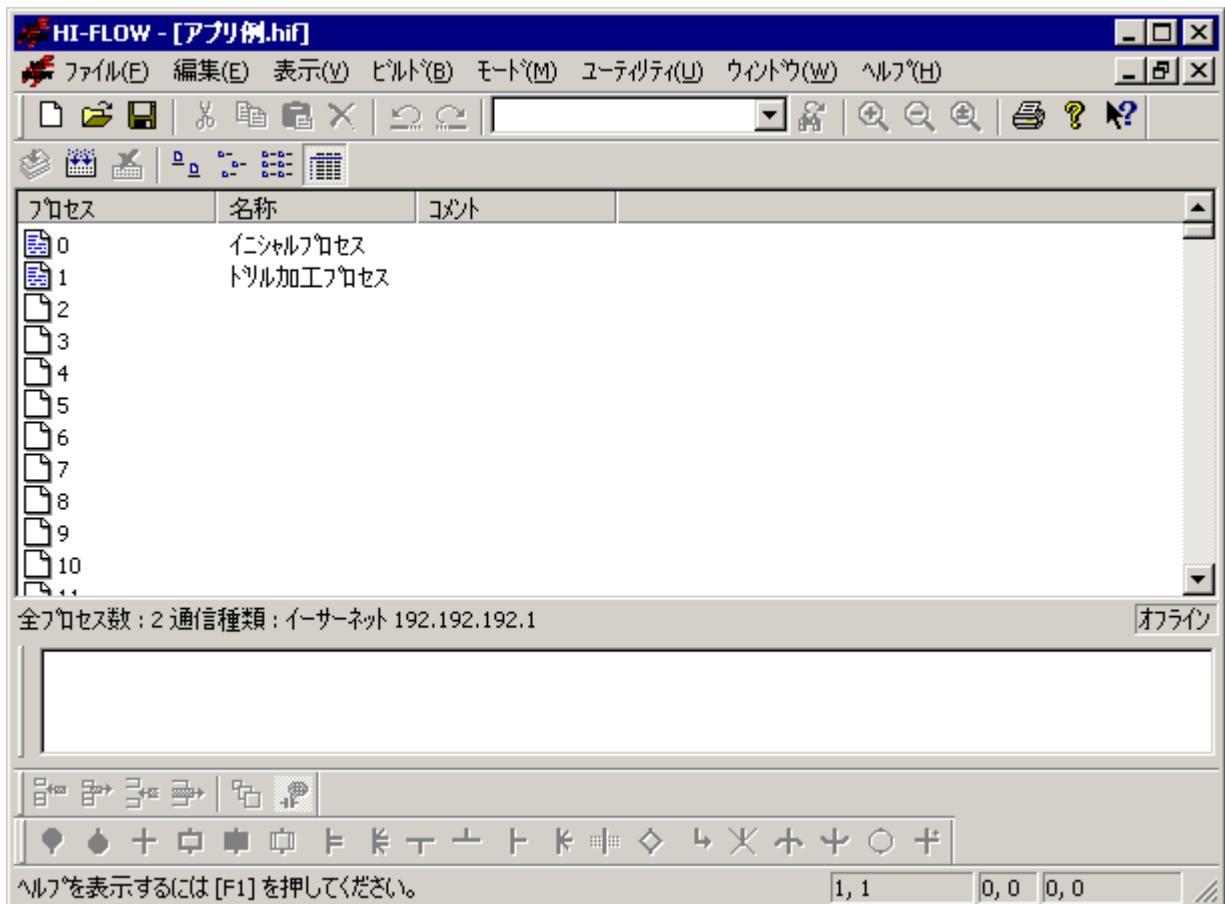
- ・HI-FLOWプロセスシート
- ・HI-FLOWシート

新規作成またはシートを開く際に種類を指定します。

3.3 HI-FLOWプロセスシート

HI-FLOWシステムでは、HI-FLOWプログラムをプロセス単位で可視的に管理します。それらの複数プロセスを可視的に管理するための情報を、HI-FLOWプロセスシートが持ちます。

HI-FLOWプロセスシートは、DOS版のプロセス一覧画面に相当します。

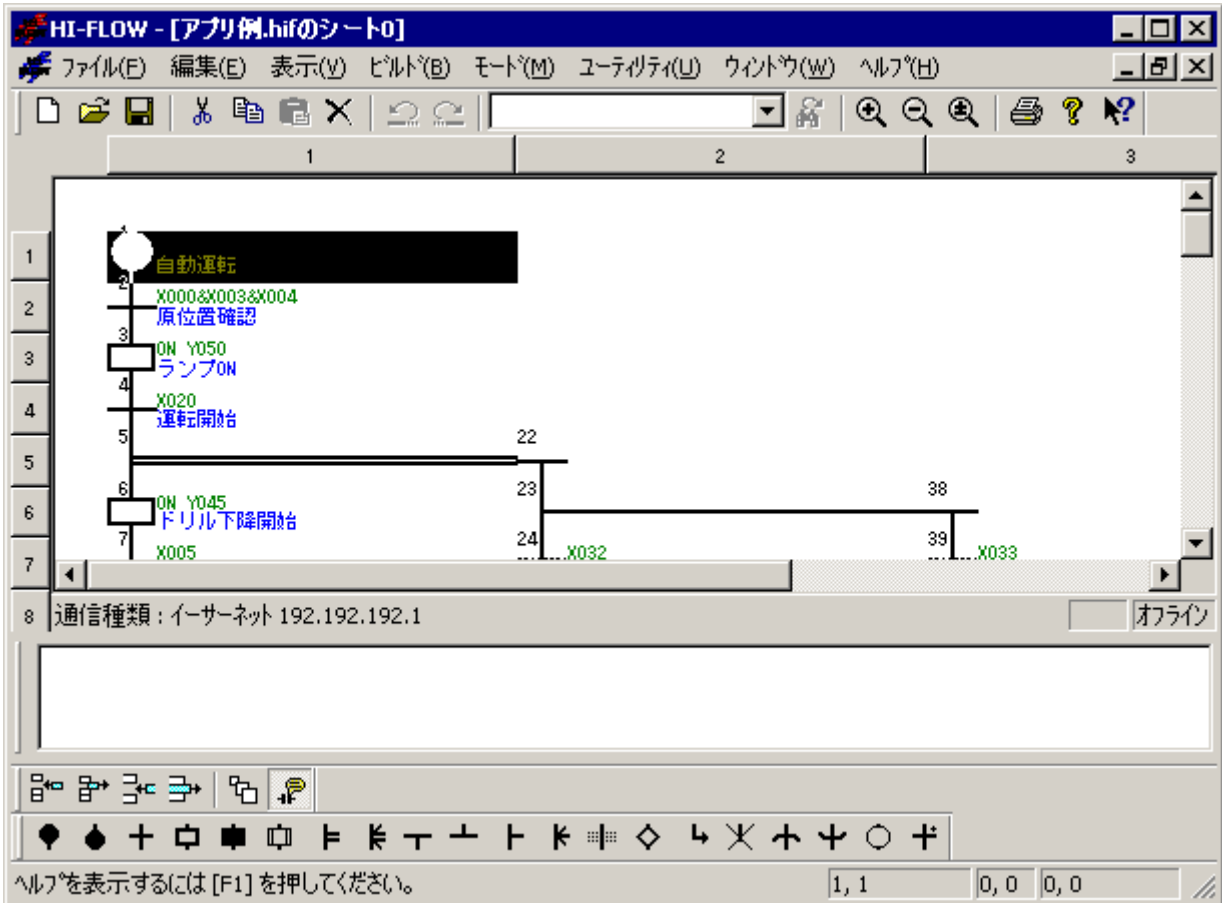


プロセスシートのプロセスアイコンをクリックすることで、HI-FLOWシートを開くことができます。

3 HI-FLOWのシート

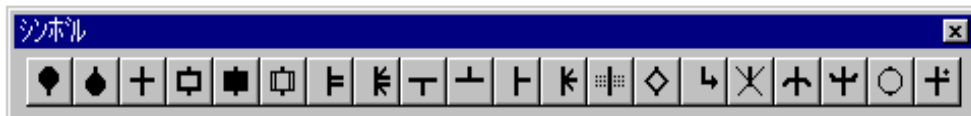
3.4 HI-FLOWシート

HI-FLOWプロセスシートに管理されるHI-FLOWプログラムは、HI-FLOWシートに存在します。HI-FLOWシートは、最大256行記述可能（最大999ステップ）で256枚まで作成できます。



HI-FLOWプログラムは、HI-FLOWシンボルを入力することにより作成します。HI-FLOWシンボルが登録されているシンボルバーからドラッグ、ドロップを行うなどの操作によりシンボルを貼り付けます。

< HI-FLOWシンボルバー >



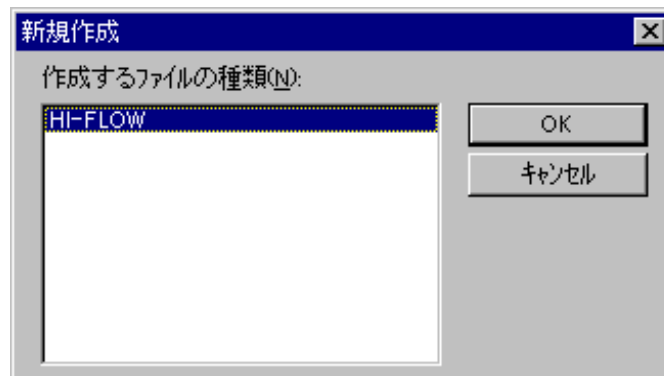
4 HI-FLOWプロセシート/ HI-FLOWシートの 機能と使用方法

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

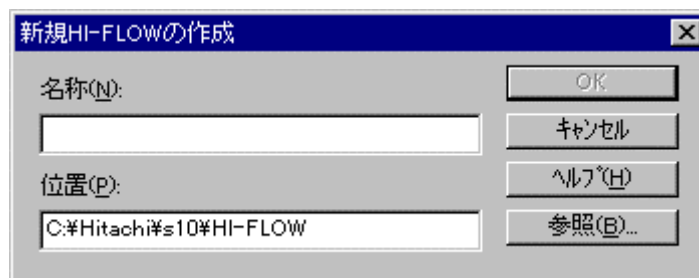
HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能とその使用方法の概要について説明します。詳細は、HI-FLOWシステムのヘルプを参照してください。

4.1 HI-FLOWプロセスシートの作成

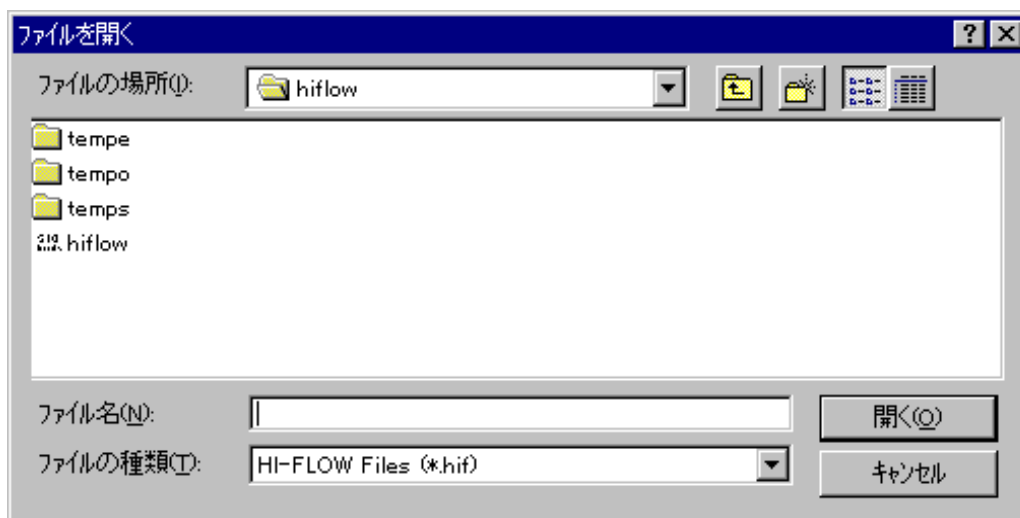
HI-FLOWプロセスシートは、存在するHI-FLOWシートをプロセス単位に可視的に管理します。HI-FLOWプロセスシートは、[ファイル]メニューから[新規作成]を選択して、新規作成します。



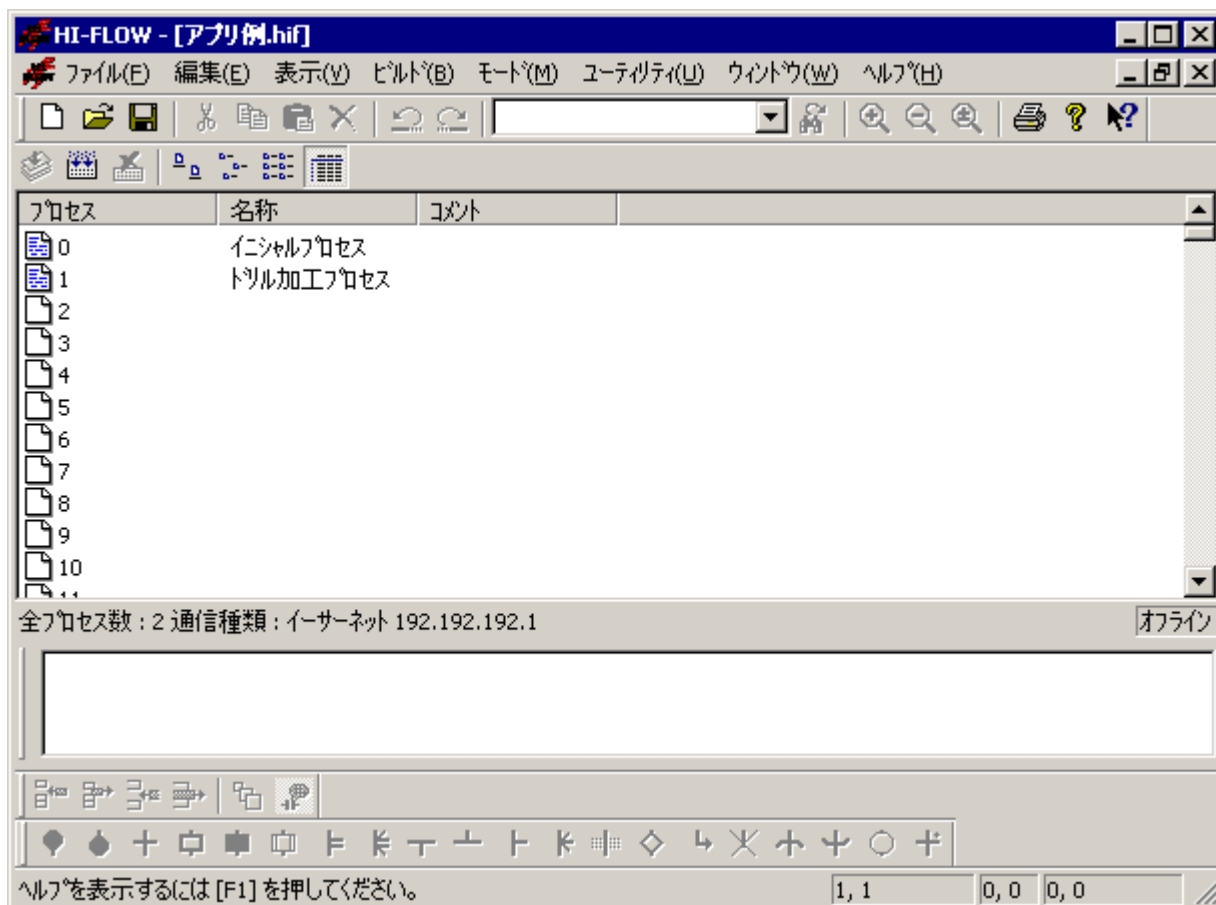
OK ボタンをクリックし、以下の画面で作成したいシート名称を設定してください。



すでに存在しているHI-FLOWプロセスシートを開く場合は、[ファイル]メニューから[開く]を選択します。



HI-FLOWプロセスシートを新規作成すると、プログラムのないプロセスシートを開きます。また、[ファイル]メニューから[開く]を選択して既存のHI-FLOWプロセスシートを開いた場合は、閉じたときの状態で開きます。



HI-FLOWプロセスシートは、同時に1つだけ開くことができます。また、ここからHI-FLOWプログラムを開く場合は、HI-FLOWプロセスシート中のHI-FLOWシートアイコンをマウスでダブルクリックしてください。

HI-FLOWプロセスシートは、以下に示す8つのメインメニューを持っています。

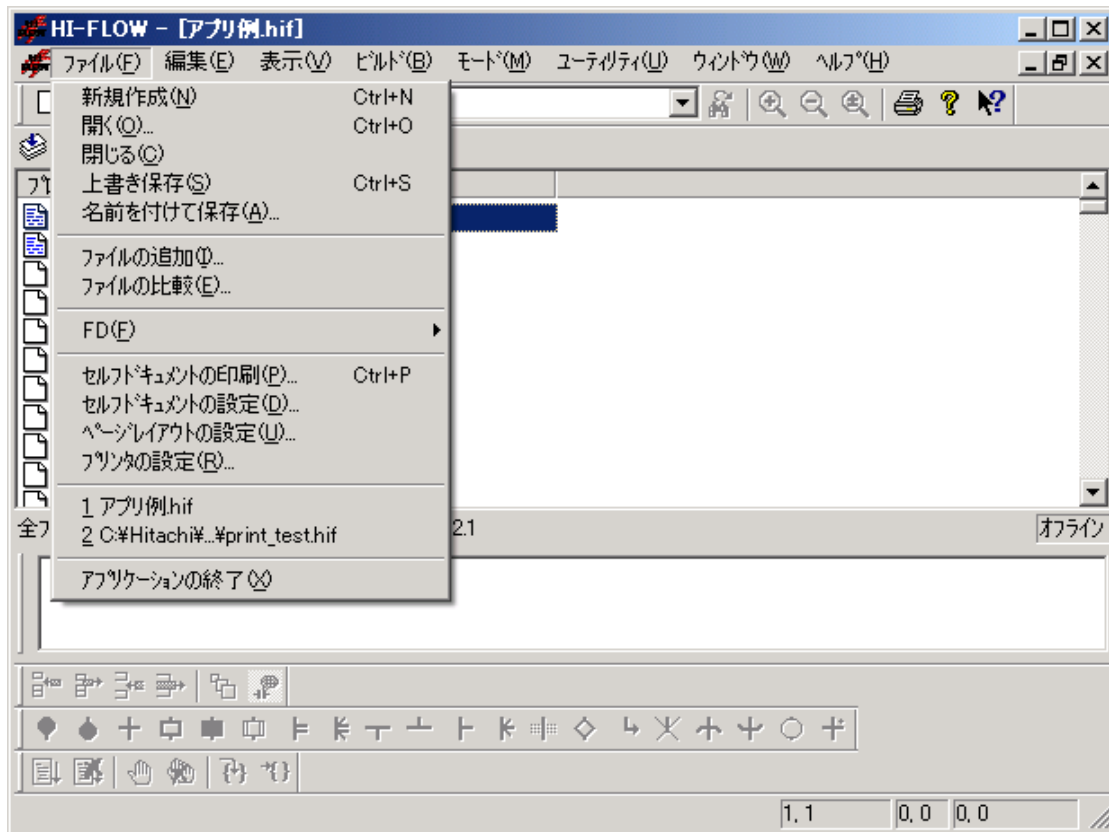
- ファイル : HI-FLOWプロセスシートの保存、読み込み、印刷等のファイル機能のメニューです。
- 編集 : HI-FLOWプロセスに対する編集機能のメニューです。
- 表示 : HI-FLOWシステムを表示形式に関する機能のメニューです。
- ビルド : HI-FLOWプログラムのコンパイルに関する機能のメニューです。
- モード : PCsとのHI-FLOWプログラム送受信に関する機能のメニューです。
- ユーティリティ : 各種ユーティリティ機能のメニューです。
- ウィンドウ : ラダーシートウィンドウに対する機能のメニューです。
- ヘルプ : ヘルプ機能のメニューです。

また、ツールバーもメニューと同様の機能を持っています。

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

4.2 HI-FLOWプロセスシートファイル機能

HI-FLOWプロセスシートのファイル機能は、プルダウンメニューにより提供します。



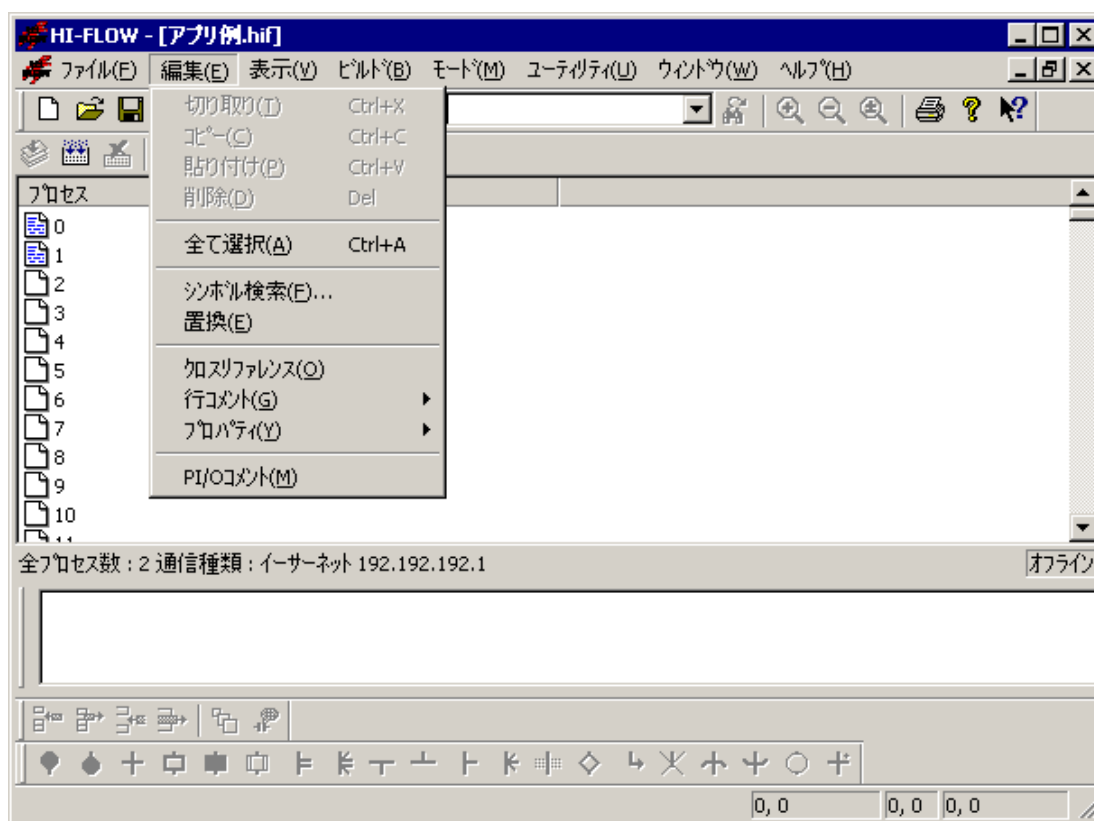
ファイル機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用	
1	ファイル	新規作成		新しいプロシム作成ウィンドウを開く		
2		開く		指定されたプロシムファイルを読み込む		
3		閉じる		現在アクティブになっているウィンドウを閉じる		
4		上書き保存		現在アクティブになっているウィンドウのプロシムデータおよびコメントを上書き保存する		
5		名前を付けて保存		現在アクティブになっているウィンドウのプロシムデータを名前を付けて保存する		
6		ファイルの追加		プロシムを追加する		
7		ファイルの比較		プロシムを比較する(対シムベース)		
8		FD		保存	現在アクティブになっているウィンドウのプロシムデータをFDに保存する	
9				読込	プロシムファイルをFDから読み込む	
10		セルフドキュメントの印刷			セルフドキュメントを印刷する	
11		セルフドキュメントの設定			セルフドキュメントの印刷方式を設定する	
12		ページレイアウトの設定			ページレイアウトを設定する	
13		プリンタの設定			プリンタの選択や印刷方式の設定などをする	
14		ファイル名1、2、3、4....			過去に使用したファイルを表示する	
15		アプリケーションの終了			このソフトウェアを終了する	

: 対応

4.3 HI-FLOWプロセスシート編集機能

HI-FLOWプロセスシートの編集機能は、プルダウンメニューにより提供します。ここでの編集機能は、HI-FLOWプログラムではなく、HI-FLOWプロセスに対しての編集機能です。このため、プロセスのコピーや削除は、このシート上で行うことができます。



編集機能の項目と内容を以下に示します。

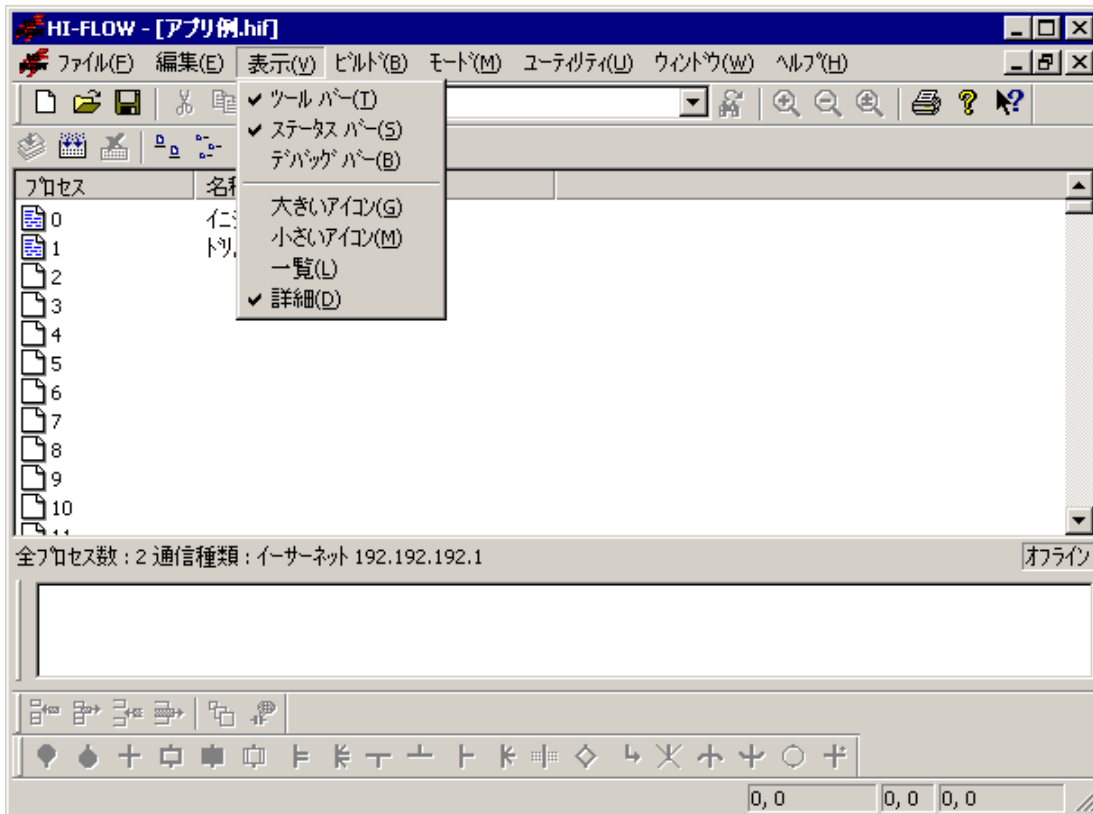
No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用	
1	編集	切り取り		指定されたプロセスの内容を削除しクリップボードにコピーする		
2		コピー		指定されたプロセスの内容をクリップボードにコピーする		
3		貼り付け		クリップボードのデータを指定位置に貼り付ける		
4		削除		指定されたプロセスの内容を削除する		
5		全て選択		すべてのプロセスアイコンを選択状態にする		
6		シンボル検索		指定したシンボルを検索する		
7		置換		指定した構文を置き換える		
8		マクロ呼び出し		指定したプロセスのシンボル情報を検索する		
9		行コメント	全プロセス		全プロセスのシンボル構文をコピーする	
10			指定プロセス		指定したプロセスのシンボル構文をコピーする	
11		プロセス	プロセス		ファイルコメントのプロセスを設定する	
12			シート		シートのプロセスを設定する	
13		PI/OCコメント			PI/OCコメント情報を編集する	

: 対応

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

4.4 HI-FLOWプロセスシート表示機能

HI-FLOWプロセスシートの表示機能は、プルダウンメニューにより提供します。



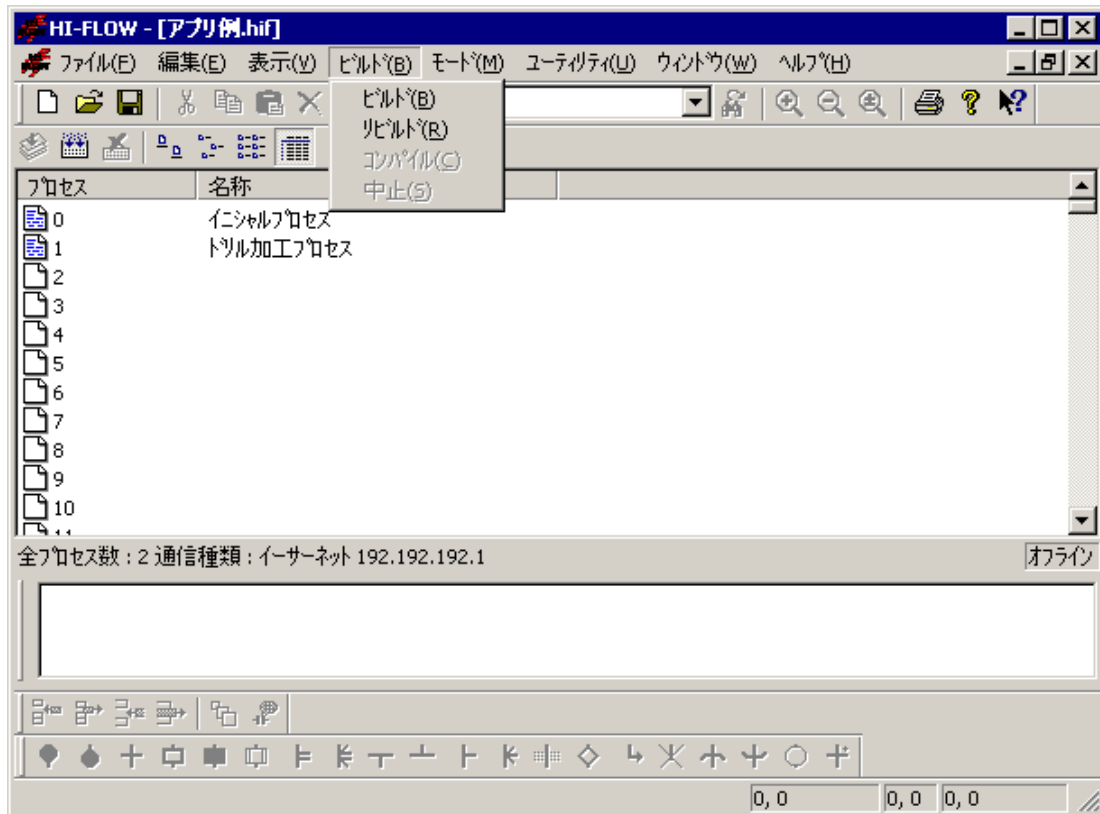
表示機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	編集	ツールバー		ツールバーの表示 / 非表示を切り替える	
2		ステータスバー		ステータスバーの表示 / 非表示を切り替える	
3		デバッグバー		デバッグバーの表示 / 非表示を切り替える	
4		大きいアイコン		プロセスを大きいアイコンで表示する	
5		小さいアイコン		プロセスを小さいアイコンで表示する	
6		一覧		プロセスを一覧で表示する	
7		詳細		プロセスを詳細に表示する	

: 対応

4. 5 HI-FLOWプロセスシートビルド機能

HI-FLOWプロセスシートのビルド機能は、プルダウンメニューにより提供します。



ビルド機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	ビルド	ビルド		未コンパイルのプロセスすべてを対象にコンパイルする	
2		リビルド		コンパイル未 / 済にかかわらずすべてのプロセスを対象にコンパイルする	
3		コンパイル		指定したプロセスをコンパイルする	
4		中止		コンパイルを中止する	

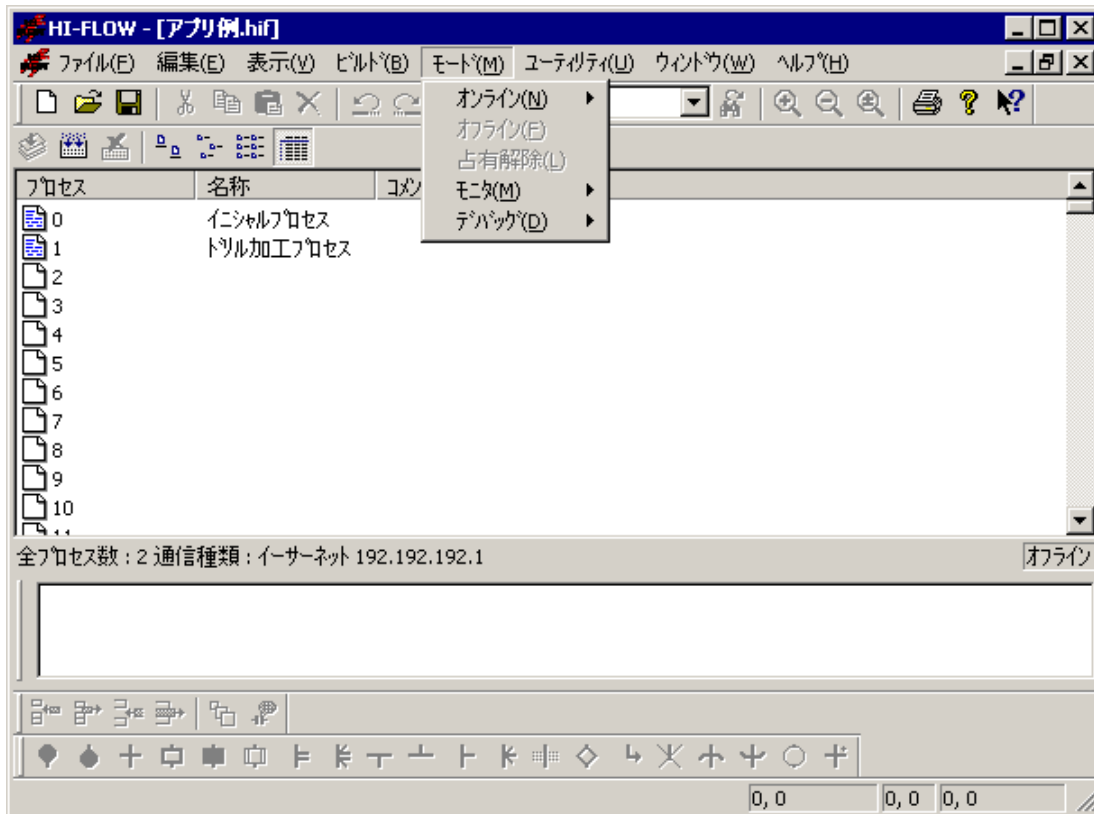
: 対応

コンパイル実行時は、少なくとも1つのプロセスを選択状態にしてください。複数のプロセスを指定する場合は、[Shift] キーや [Ctrl] キーを押しながらHI-FLOWシートアイコンをクリックしてください。

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

4. 6 HI-FLOWプロセスシートモード機能

HI-FLOWプロセスシートのモード機能は、プルダウンメニューにより提供します。



オンライン / オフラインのモードごとに処理対象や実行可能な機能が変わりますので注意してください。モードを以下に示します。

(1) オフラインモード

編集ターゲットはパソコンのメモリまたはファイルです。

(2) オンラインモード

編集ターゲットはPCsと一致したパソコンのメモリまたはファイルです。オンラインに切り替えるには、PCsと一致させるための送信または受信が必要です。

HI-FLOWシステムは、起動されると無条件でオフラインモードとなります。プルダウンメニューで希望のモードに切り替えます。

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

モード機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3		機能概要	モニタ専用
1	モード	オンライン	送信	全ポート	全ポートをPCsへ送信し、オンラインモードにする	×
2				指定ポート	指定ポートをPCsへ送信し、オンラインモードにする	×
3			受信	全ポート	PCsの全ポートを受信し、オンラインモードにする	
4				指定ポート	PCsの指定ポートを受信し、オンラインモードにする	
5				無条件オンライン		無条件でオンラインモードにする
6			オフライン		モードをオフラインモードにする	
7			占有解除		自PCによる占有を解除する	×
8			モニタ	開始	モニタ開始する	
9		停止		モニタ停止する		
10			デバッグ	トレース	開始条件と終了条件間のポートの動きをトレースし表示する	×
11				時間監視	開始条件と終了条件間の経過時間をモニタする	×
12				ブレイクポイント	ブレイクポイントを設定、解除する	×

: 対応、× : 非対応

モニタ専用HI-FLOWシステムは、ネットワークに対応した占有機能を持っていません。これは、ネットワーク上の複数のモニタ専用HI-FLOWシステムが同じPCsに対しての多重アクセスを可能とするためです。このため、オンラインを指定しても、接続先のPCsを占有しません。

ただし、パソコンと接続するET.NETのバージョンが下記未満の場合は、接続先のPCsを占有します（ET.NETのバージョンが下記未満の場合、4回線同時モニタはできません）。

LWE550の場合、バージョン4，レビジョン1（2 シリーズ）

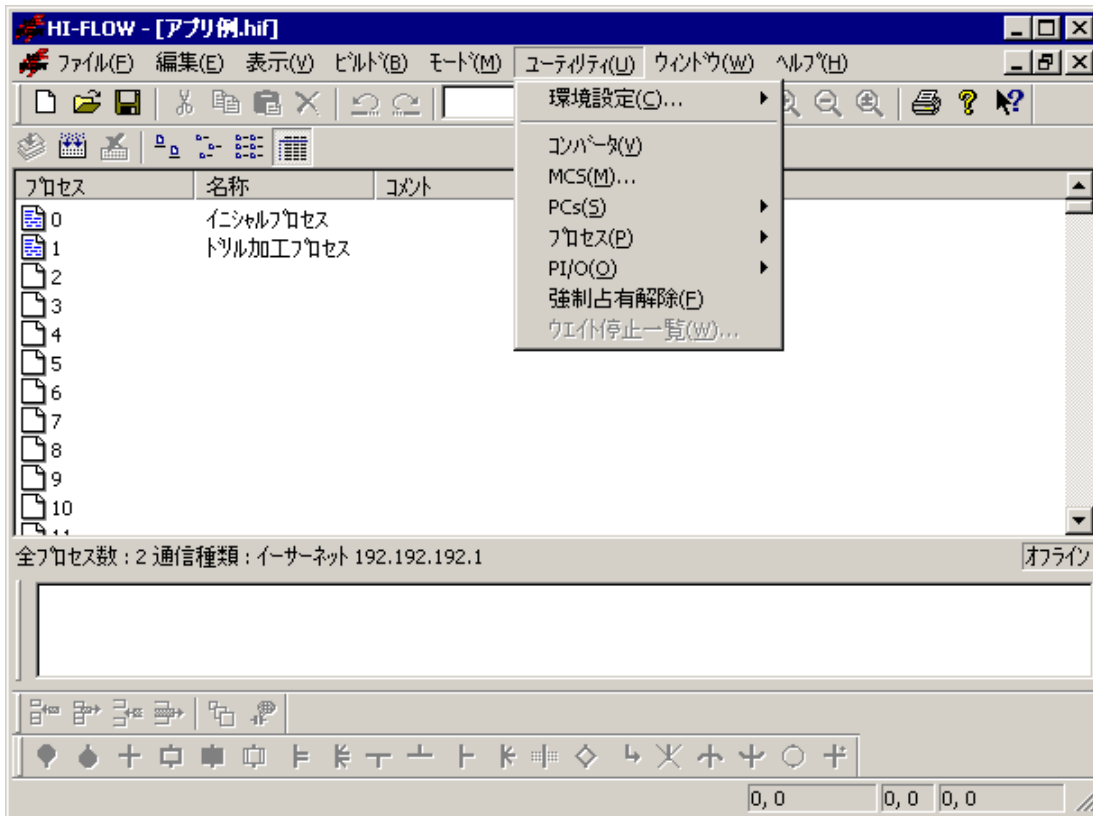
LQE020の場合、バージョン3，レビジョン1（S10miniシリーズ）

注 意

モニタ専用HI-FLOWは、PCsへの書き込み機能はすべて使用できません。もし、書き込みを実施したい場合は、通常のHI-FLOWシステムを使用してください。

4.7 HI-FLOWプロセスシートユーティリティ機能

HI-FLOWプロセスシートのユーティリティ機能は、プルダウンメニューにより提供します。



ユーティリティ機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	ユーティリティ	環境設定	ツールバー	ツールバーのボタンを設定する	
2			表示位置	構文、ツール、コメントのデフォルト表示位置を設定する	
3			背景色	各モードのシートの背景色を設定する	
4			ベストモード	ベスト時のモード（上書 / 挿入）を設定する	
5		コンバータ		DOS版HI-FLOWで作成したソースをコンバートする	
6		MCS		メモリ読み書きをする	
7		PCs	接続PCs変更	PCsとの通信種類を設定する	
8			PCs状態変更	PCsを強制ストップ / 解除する	×
9			システムイメージ	PCs上で動作する条件、環境を設定する	×
10			PCsプロセッサ削除	HI-FLOWのシステムの入れ換え / 削除をする	×
11			システムビット割付	PCs上の実行状態を反映するビット型PI/Oを設定する	×
12		プロセッサ	プロセッサ関連図	プロセッサのつながりとそのプロセッサ名称を表示する	
13			全プロセッサ容量	全プロセッサの容量を表示する	

○ : 対応、 × : 非対応、 △ : 制限付き対応（注意参照）

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
14	ユーティリティ (続き)	プロセス (続き)	プロセスリスタート	PCs上のプロセスを現在の状態から強制的にリスタートさせる	×
15			プロセスACT	PCs上のプロセスを現在の状態から起動をかける	×
16			プロセスRST	PCs上のプロセスを現在の状態からリセットする	×
17			プロセスSTP	PCs上のプロセスを現在の状態からストップする	×
18			プロセスCLR	PCs上のプロセスを現在の状態からクリアする	×
19		PI/O	未使用PI/O削除	未使用のPI/Oを削除する	
20		強制占有解除		PCsの占有状態を強制的に解除する	×
21	ウェイト停止一覧		プロセスの停止ステップのシンボル図形、構文等を表示する		

○ : 対応、× : 非対応、△ : 制限付き対応 (注意参照)

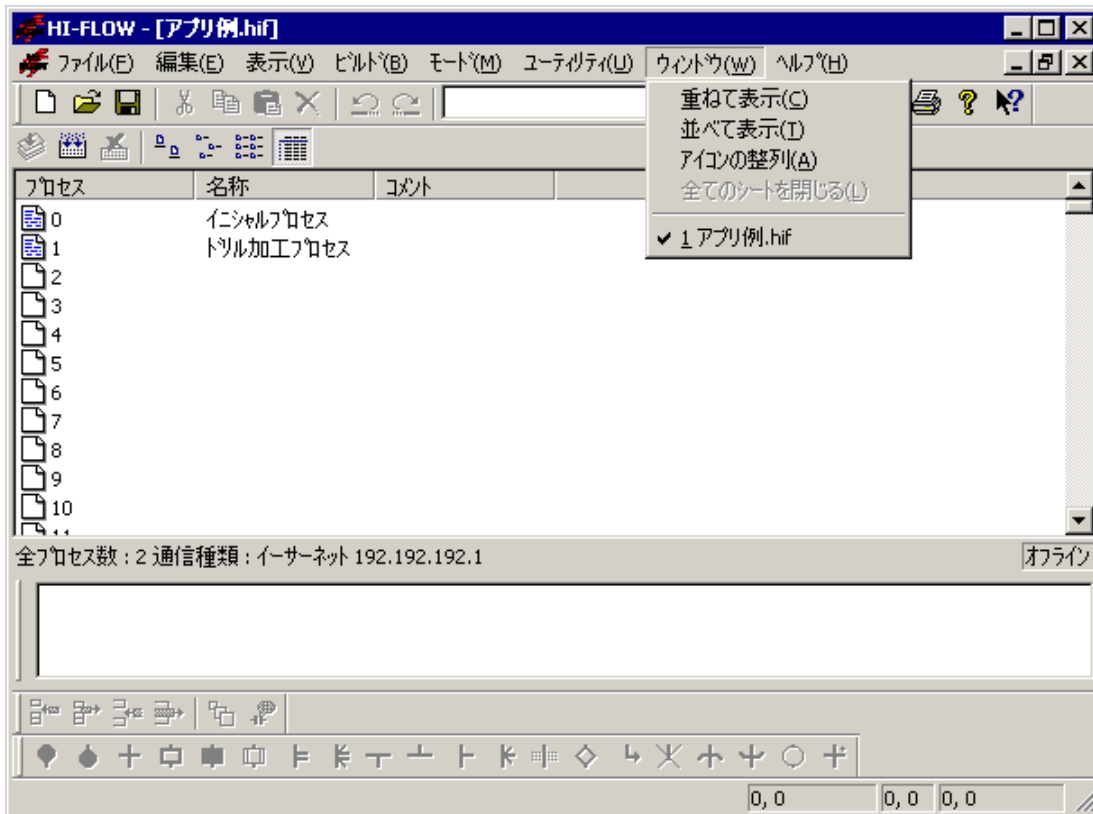
注 意

△の機能は、モニタ機能と共に書き込み機能を持っています。○の意味は、モニタ機能のみ実行でき、書き込み機能は実行できないことを意味しています。

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

4. 8 HI-FLOWプロセスシートウィンドウ機能

HI-FLOWプロセスシートのウィンドウ機能は、プルダウンメニューにより提供します。



ウィンドウ機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	ウィンドウ	重ねて表示		ウィンドウを重ねて表示する	
2		並べて表示		ウィンドウを並べて表示する	
3		アイコンの整列		アイコンを整列する	
4		全てのシートを閉じる		現在開いているすべてのプロセス詳細シートを閉じる	
5		ファイル名1, 2, ...		アクティブなウィンドウを選択する	

: 対応

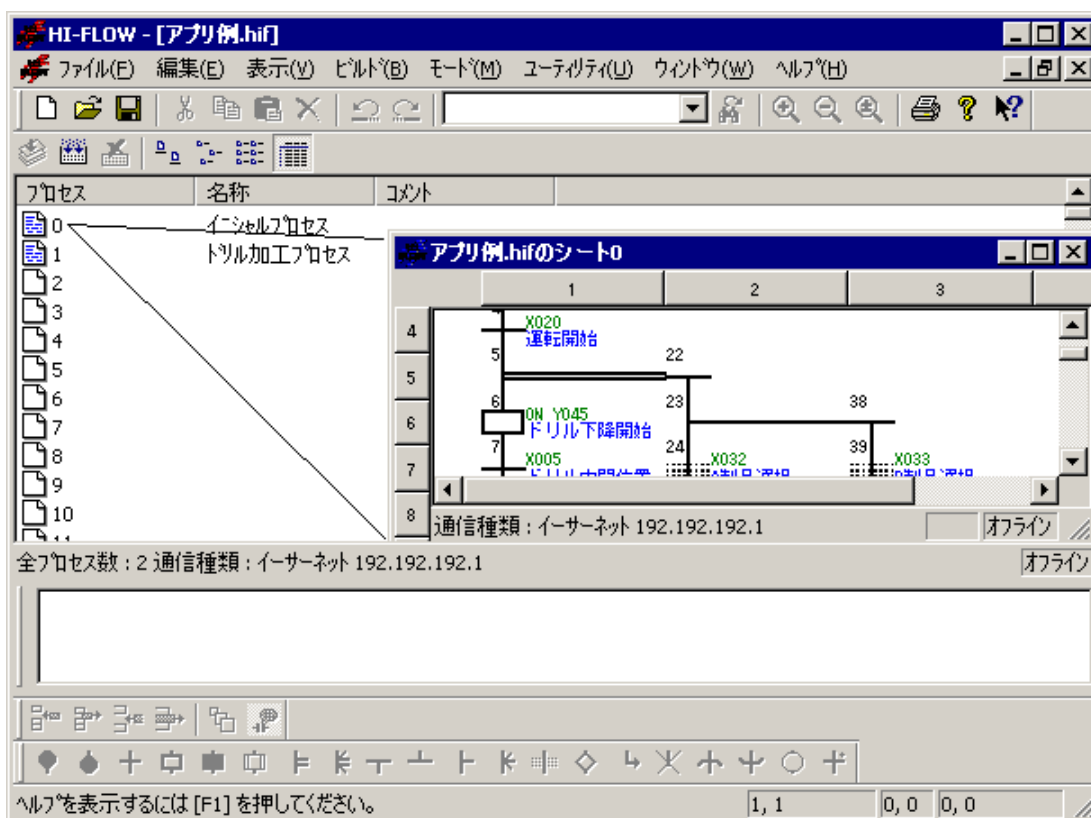
4.9 HI-FLOWシートの作成

HI-FLOWシートは256プロセス分複数存在し、HI-FLOWプロセスシートから開きます。

HI-FLOWプロセスシートにあるシートアイコンをダブルクリックすると、HI-FLOWシートが開きます。

HI-FLOWシートにHI-FLOWプログラムを記述し、保存することによって、そのHI-FLOWシートがHI-FLOWプロセスシートに登録されます。

< HI-FLOWプロセスシートとHI-FLOWシート >



< HI-FLOWシンボルバー >



シンボルバー左から

- ・ プロセススタート、プロセスエンド、ウェイト、ボックス、コントロールボックス、コール、パラスタート、パラエンド、ルートスタート、ルートエンド、セレクト、セルエンド、セルウェイト、イフ、ジャンプ、エスケープ、リピートスタート、リピートエンド、ファンクション、前条件付きウェイト

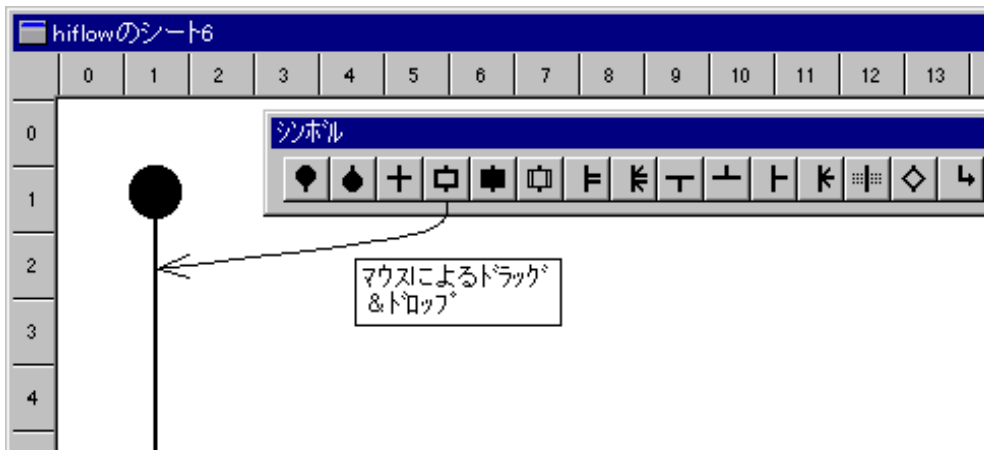
4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

4.9.1 HI-FLOWシンボルの貼り付け

HI-FLOWシンボルのシートへの貼り付けにはいくつかの方法があります。好みの方で貼り付けてください。

(1) マウスによるドラッグ&ドロップ

シンボルバーにあるシンボルをドラッグしたまま貼り付ける位置へ持っていく、ドロップします。





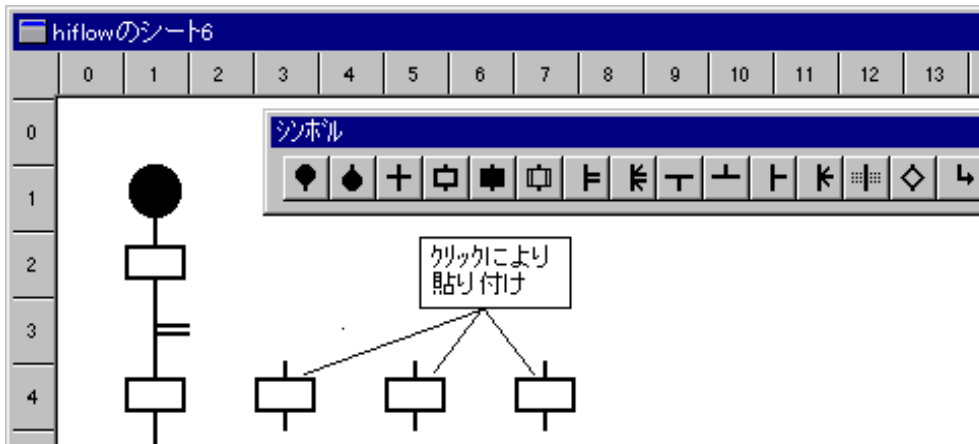
(2) マウスによる入力カーソル位置に従った貼り付け

シンボルバーにあるシンボルをクリックすると、シンボルカーソル位置をクリックしたシンボルが貼り付きます。






(3) マウスによる指定シンボルの連続入力

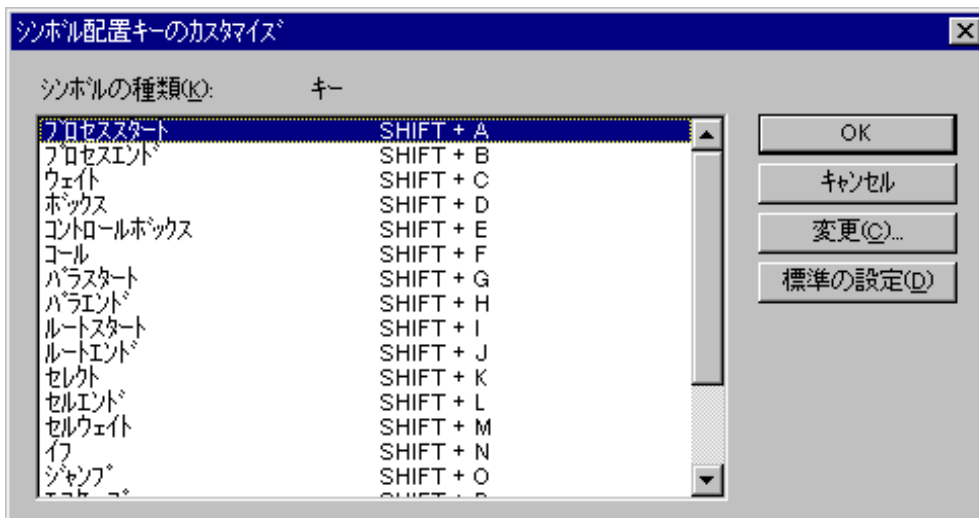
編集バーの  (連続) を指定すると、そのシンボルを連続して入力できます。シート上の貼り付けたい位置をクリックすると、指定シンボルが貼り付きます。連続入力を解除する場合は、編集バーの  (連続) で連続入力を解除します。



(4) キーによる貼り付け

指定されたキー操作により、シート上のシンボルカーソル位置にシンボルを貼り付けることができます。シンボルカーソルは、、、 で移動します。また、キー操作は任意にカスタマイズ（[ユーティリティ]メニューから[キーボード]を選択）できます。

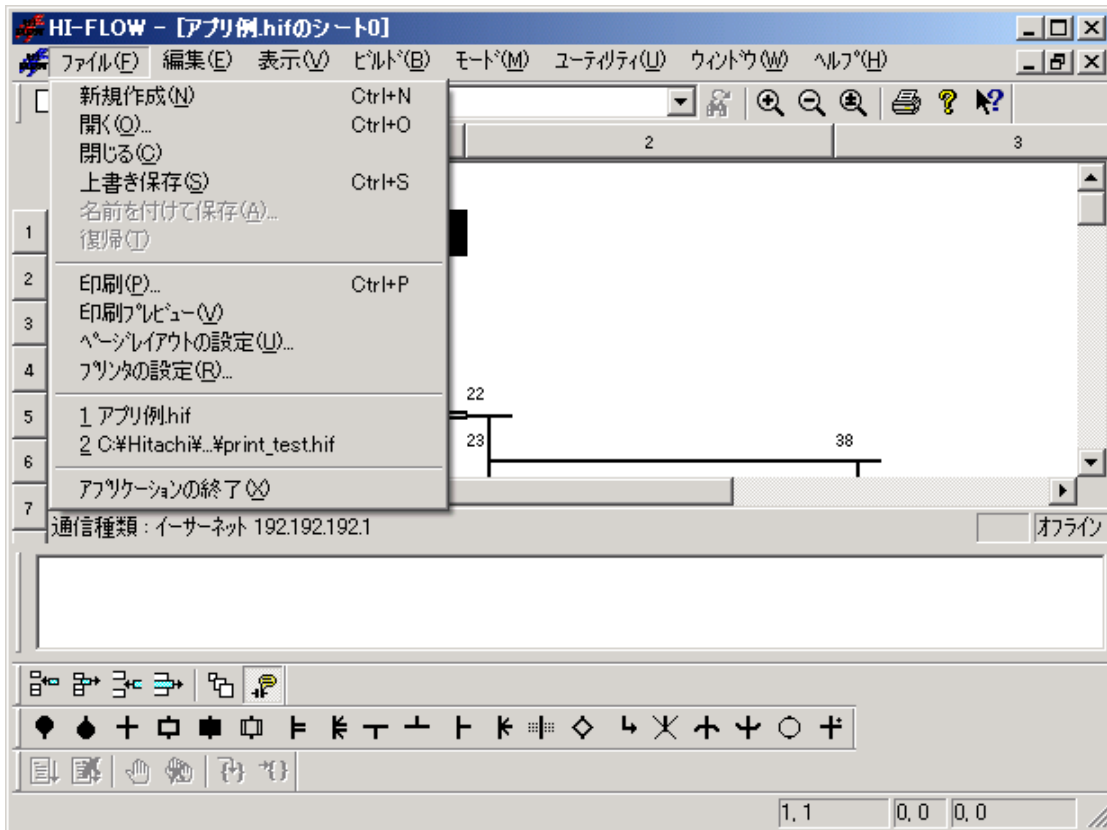
< [シンボル配置キーのカスタマイズ] 画面 >



4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

4.10 HI-FLOWシートファイル機能

HI-FLOWシートのファイル機能は、プルダウンメニューにより提供します。



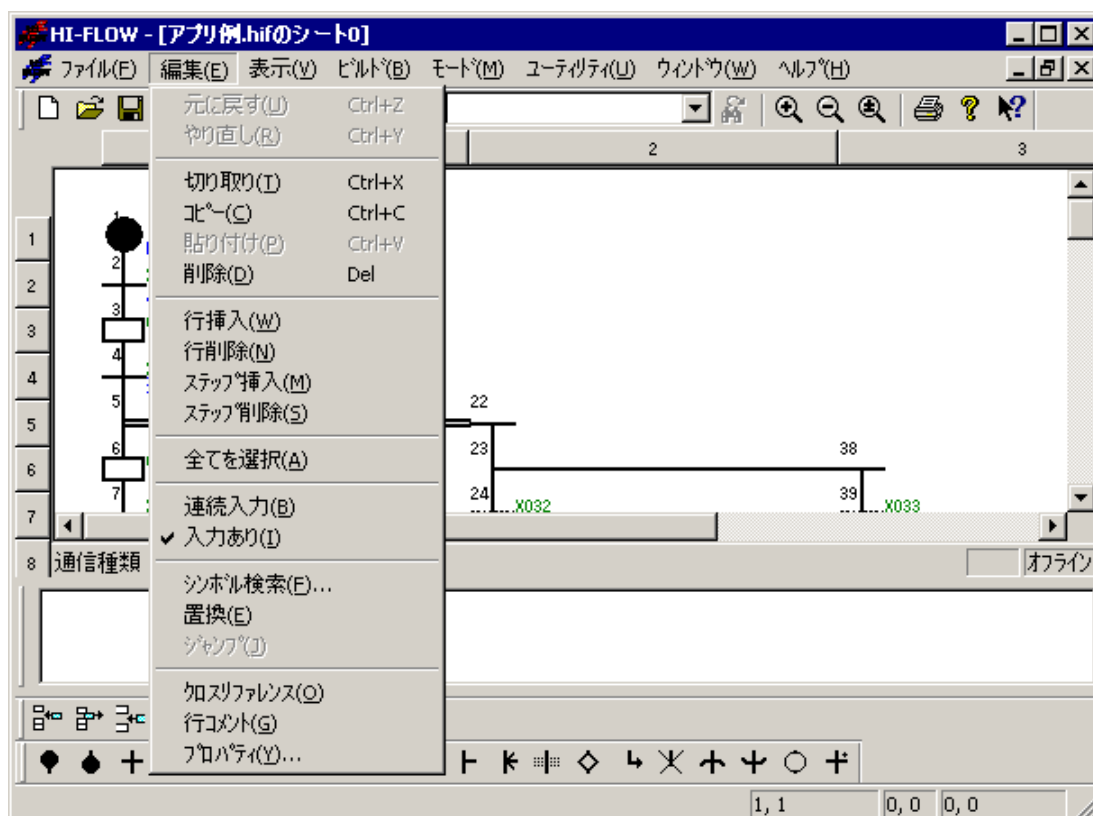
ファイル機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	ファイル	新規作成		新しいプログラム作成ウィンドウを開く	
2		開く		指定されたプログラムファイルを読み込む	
3		閉じる		現在アクティブになっているウィンドウを閉じる	
4		上書き保存		現在アクティブになっているウィンドウのプログラムデータおよびコメントデータを上書き保存する	
5		名前を付けて保存		現在アクティブになっているウィンドウのプログラムデータを名前を付けて保存する	
6		復帰		ウィンドウを開いたときの状態に戻す	
7		印刷		印刷範囲、プリントなどを設定し印刷する	
8		印刷プレビュー		印刷イメージを画面に表示する	
9		ページレイアウトの設定		ページレイアウトを設定する	
10		プリントの設定		プリントを設定する	
11		ファイル名1、2、3、4....		過去に使用したファイルを表示する	
12		アプリケーションの終了		このソフトウェアを終了する	

: 対応

4.11 HI-FLOWシート編集機能

HI-FLOWシートの編集機能は、プルダウンメニューにより提供します。ここでの編集機能は、HI-FLOWプログラムに対しての編集機能です。このため、ステップ、行、シンボル、構文のコピーや削除は、このシート上で行うことができます。



編集機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	編集	元に戻す		今回実行した操作を取り消す	
2		やり直し		前回実行した操作を順番に取り消す	
3		切り取り		指定された範囲を削除しクリップボードにコピーする	
4		コピー		指定された範囲をクリップボードにコピーする	
5		貼り付け		クリップボードのデータを指定位置にコピーする	
6		削除		指定された範囲のデータをクリアする	
7		行挿入		シートに行を挿入する	
8		行削除		指定された行を削除する	
9		ステップ挿入		シートに1ステップ挿入する	
10		ステップ削除		指定されたステップを削除する	
11		全てを選択		すべてを選択する	

: 対応

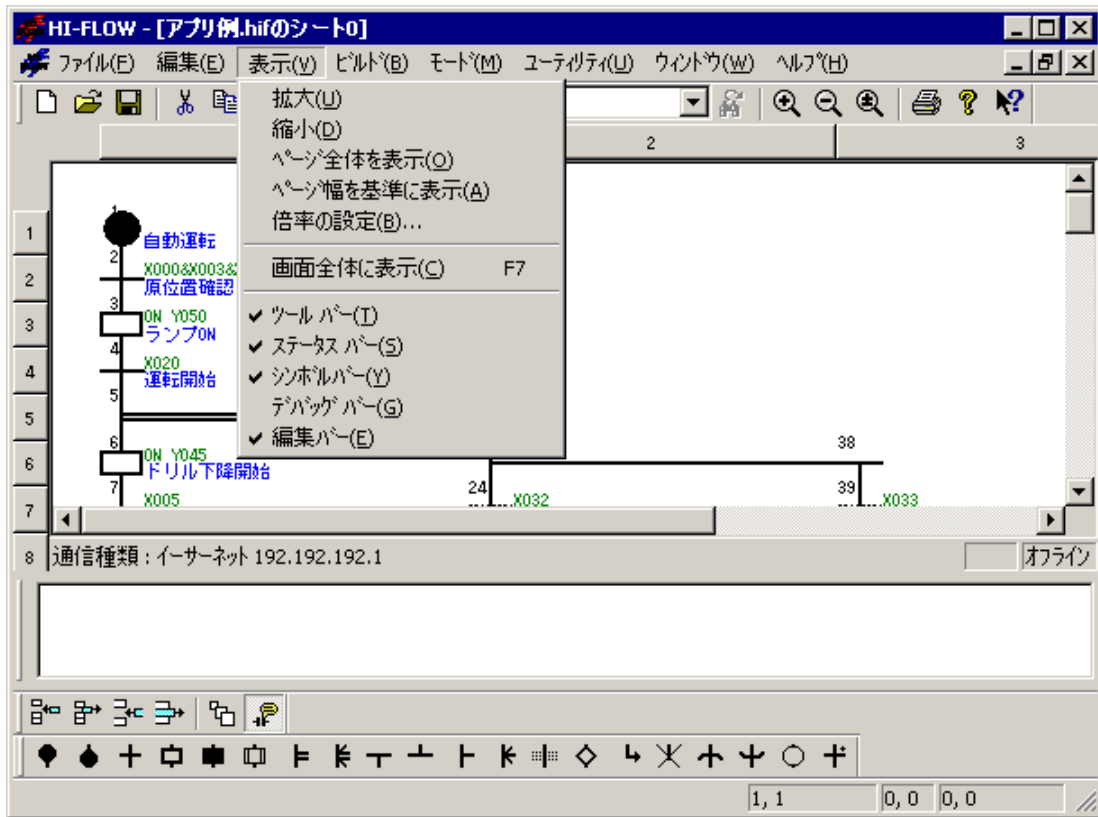
4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
12	編集 (続き)	連続入力		指定したシンボルを連続して描画する	
13		入力あり		シンボルが確定した時点で、入力ウィンドウを開く	
14		シンボル検索		指定したシンボルにカーソルを移動する	
15		置換		指定した構文を置き換える	
16		ジャンプ		指定したステップ No.にカーソルを移動する	
17		クロスリファレンス		指定したプロセスのシンボル情報を検索する	
18		行コメント		シンボル構文をコメントにコメントする	
19		プロパティ		シートのプロパティを設定する	

: 対応

4.12 HI-FLOWシート表示機能

HI-FLOWシートの表示機能は、プルダウンメニューにより提供します。



表示機能の項目と内容を以下に示します。

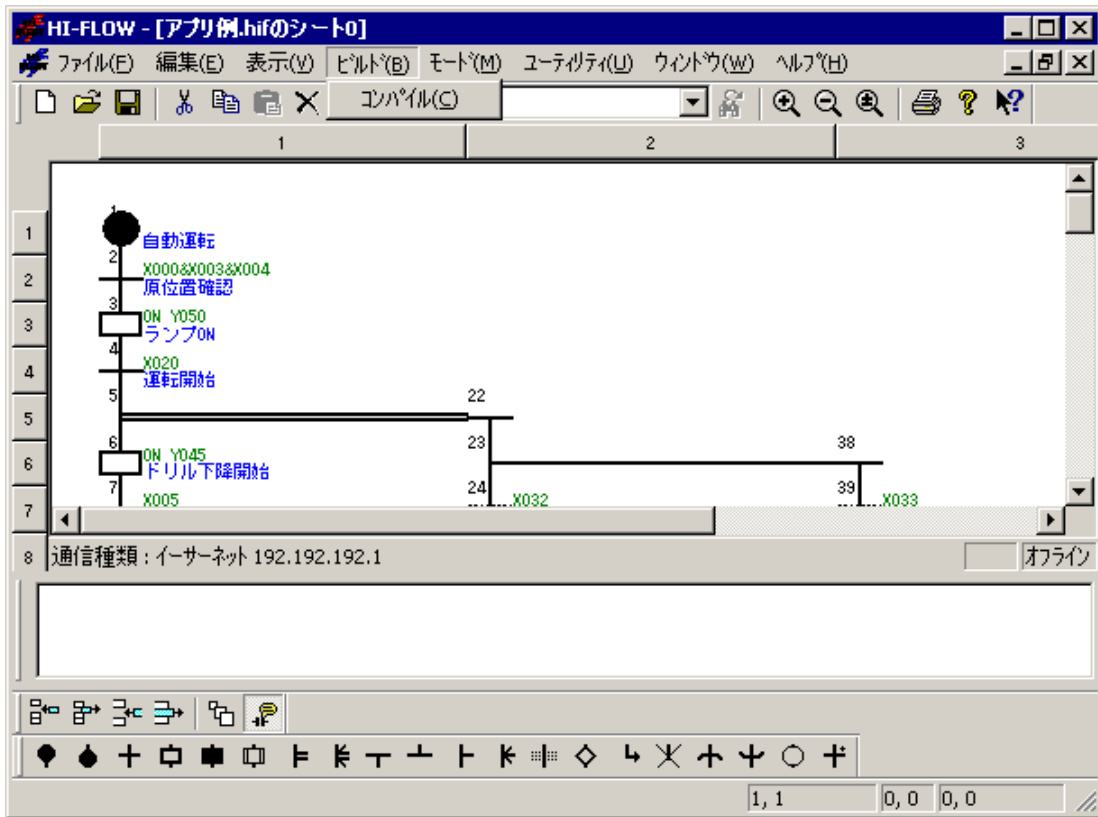
No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	表示	拡大		拡大表示する	
2		縮小		縮小表示する	
3		ページ全体を表示		ページ全体を表示する	
4		ページ幅を基準に表示		ページ幅を基準に表示する	
5		倍率の設定		表示倍率を設定する	
6		画面全体に表示		画面全体に表示する	
7		ツールバー		ツールバーの表示 / 非表示を切り替える	
8		ステータスバー		ステータスバーの表示 / 非表示を切り替える	
9		シンボルバー		シンボルバーの表示 / 非表示を切り替える	
10		デバッグバー		デバッグバーの表示 / 非表示を切り替える	
11		編集バー		編集バーの表示 / 非表示を切り替える	

: 対応

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

4.13 HI-FLOWシートビルド機能

HI-FLOWシートのビルド機能は、プルダウンメニューにより提供します。



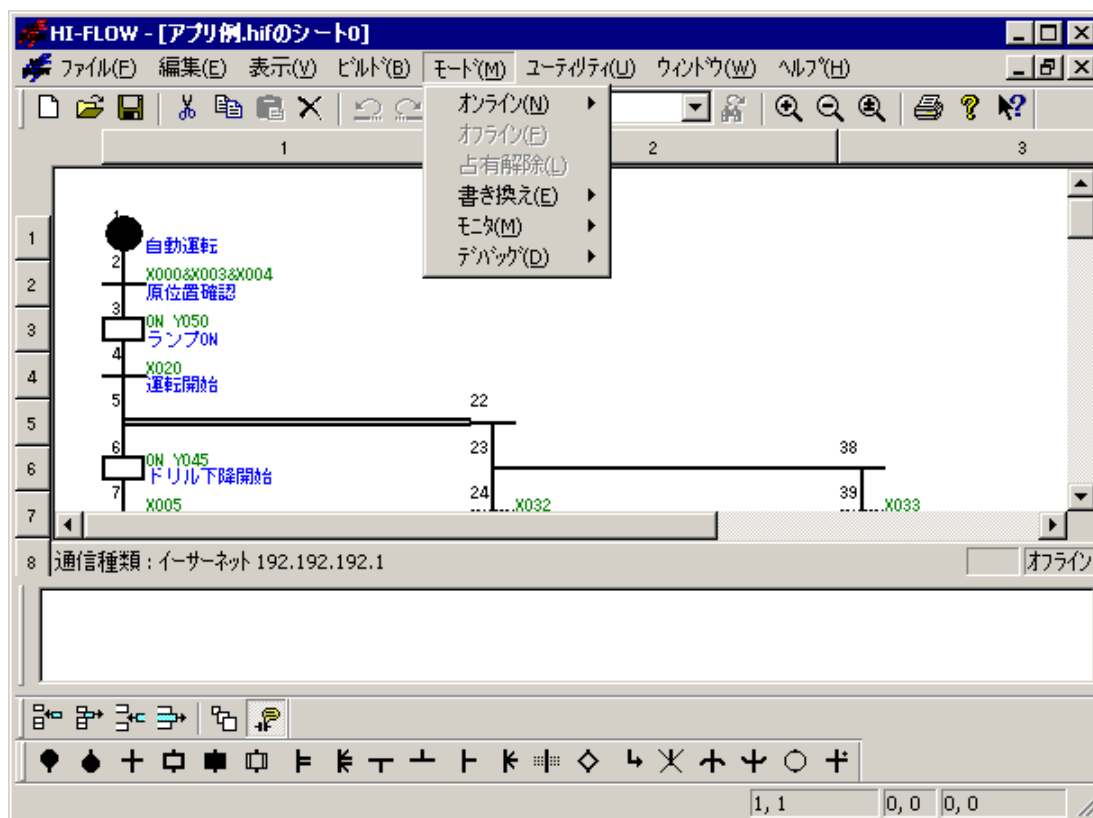
ビルド機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	ビルド	コンパイル		コンパイルする	

: 対応

4.14 HI-FLOWシートモード機能

HI-FLOWシートのモード機能は、プルダウンメニューにより提供します。



モード機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	モード	オンライン	送信	プロセッサをPCsへ送信し、オンラインモードにする	×
2			受信	PCsのプロセッサを受信し、オンラインモードにする	
3			無条件オンライン	無条件でオンラインモードにする	
4		オンライン		モードをオンラインモードにする	
5		占有解除		自PCによる占有を解除する	×
6		書き換え	ステップ	PCsの内容を書き換える（ステップの構文 / コメントが対象）	×
7	プロセッサ		PCsの内容を書き換える（プロセッサ内の全項目が対象）	×	
8		モニタ	開始	モニタ開始する	
9	停止		モニタ停止する		
10	ステップ		通過ステップをモニタする	×	
11	トークン		トークンをモニタする		
12	I/O		ビットのON/OFFをモニタする		
13	クリア		実行軌跡を初期化する	×	
14	デバッグ		トレース	開始条件と終了条件間のプロセッサの動きをトレースし表示する	×
15		時間監視	開始条件と終了条件間の経過時間をモニタする	×	
16		ブレークポイント	ブレークポイントを設定、解除する	×	
17			実行点	実行点にカーソルを移動する	

: 対応、× : 非対応

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

モニタ専用HI-FLOWシステムは、ネットワークに対応した占有機能を持っていません。これは、ネットワーク上の複数のモニタ専用HI-FLOWシステムが、同じPCsに対しての多重アクセスを可能とするためです。このため、オンラインを指定しても、接続先のPCsを占有しません。

ただし、パソコンと接続するET.NETのバージョンが下記未満の場合は、接続先のPCsを占有します（ET.NETのバージョンが下記未満の場合、4回線同時モニタはできません）。

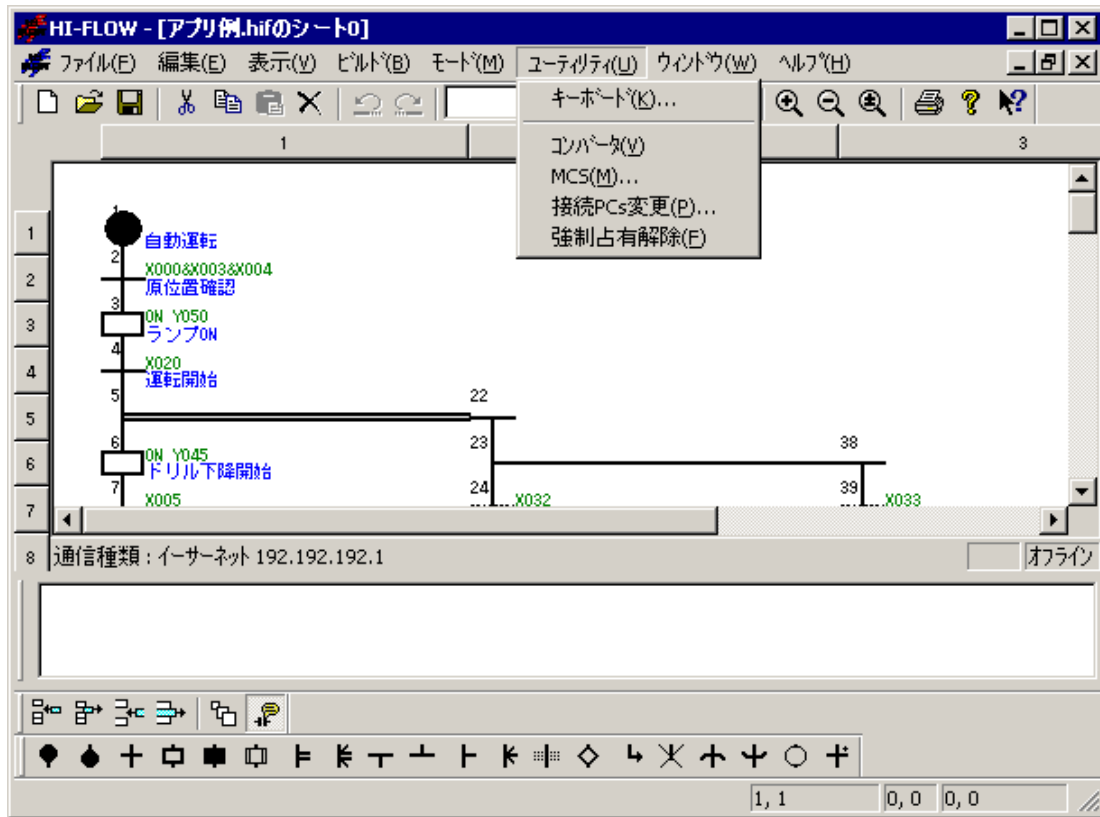
LWE550の場合、バージョン4，レビジョン1（2 シリーズ）

LQE020の場合、バージョン3，レビジョン1（S10miniシリーズ）

<h3>注 意</h3>
モニタ専用HI-FLOWは、PCsへの書き込み機能はすべて使用できません。もし、書き込みを実施したい場合は、通常のHI-FLOWシステムを使用してください。

4.15 HI-FLOWシートユーティリティ機能

HI-FLOWシートのユーティリティ機能は、プルダウンメニューにより提供します。



ユーティリティ機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	ユーティリティ	キーボード		キーボードによるシリアル入力を設定する	
2		コンバータ		DOS版HI-FLOWで作成したソースをコンバートする	
3		MCS		メモリ読み書きをする	
4		接続PCs変更		PCsとの通信種類を設定する	
5		強制占有解除		PCsの占有状態を強制的に解除する	×

: 対応、× : 非対応、 : 制限付き対応 (注意参照)

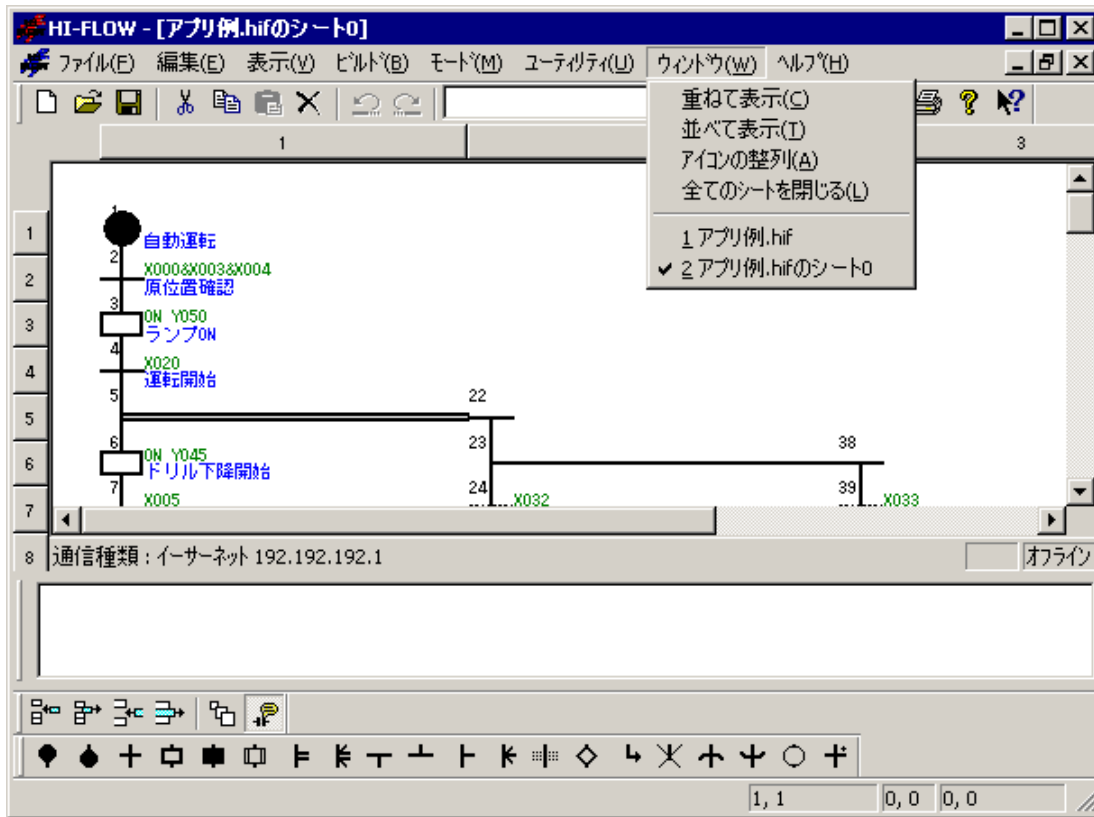
注意

の機能は、モニタ機能と共に書き込み機能を持っています。の意味は、モニタ機能のみ実行でき、書き込み機能は実行できないことを意味しています。

4 HI-FLOWプロセスシート / HI-FLOWシートの機能と使用方法

4.16 HI-FLOWシートウィンドウ機能

HI-FLOWシートのウィンドウ機能は、プルダウンメニューにより提供します。



ウィンドウ機能の項目と内容を以下に示します。

No.	レベル1	レベル2	レベル3	機能概要	モニタ専用
1	ウィンドウ	重ねて表示		ウィンドウを重ねて表示する	
2		並べて表示		ウィンドウを並べて表示する	
3		アイコンの整列		アイコンを整列する	
4		全てのシートを閉じる		現在開いているすべてのプロセス詳細シートを閉じる	
5		ファイル名1,2,...		アクティブなウィンドウを選択する	

: 対応

ご利用者各位

〒101-8010

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
株式会社日立製作所

お 願 い

各位にはますますご清栄のことと存じます。

さて、この資料をより良くするために、お気付きの点はどんなことでも結構ですので、
下欄にご記入の上、当社営業担当または当社所員に、お渡しくださいますようお願い申
しあげます。なお、製品開発、サービス、その他についてもご意見を併記して頂ければ
幸甚に存じます。

ご住所 〒	_____
貴会社名 (団体名)	_____
芳名	_____
製品名	
ご意見欄	_____ _____